

契丹文字に遺された「秘史」

——成百仁先生の傘寿に寄せて——

吉本 智慧子

アルタイ学界の著名な先達成百仁先生に初めてお目にかかる機会を得たのはある国際会議の場であった。当時アルタイ学の後進であったわたくしは、三つの満洲語現代方言（黒竜江方言・嫩江方言・伊犁方言¹⁾）に関する調査報告を発表するところであった。それから30年近くがたち、わたくしの研究領域もすでに空間的にも時間的にも満洲から契丹・女真へと東ユーラシアのほぼ全域にまで広がっているが、初対面の際拝聴した先生のお教えは生涯にわたってわたくしを裨益するものとなっている。折良く2013年は先生の傘寿にあたるが、アルタイ学にとって最新かつ貴重な資料—遼代の契丹大小字と元代の女真大字が出土し、それぞれの分野における空白を補う画期的意義をもつ。元代女真大字新資料の解読は、金・明二王朝に限られていた女真文字研究の現状を打破し、金末の『女真進士題名碑』から明初の『四夷館女真訳語』にかけての180余年の間における女真文字の空白状態を見事に補う快挙であり、女真民族の文化史に色濃い一章を書き加えるものでもある。わたくしは、すでに2013年5月に高麗大学主催の国際会議で「元代女真大字新資料」と題してこれを発表した。ここでは、契丹大小字新資料を含むいまままでに発見された契丹文字に遺された契丹人の「秘史」ともいべき石刻資料に関する最新の解読成果を一文にまとめ、成百仁先生の傘寿をお祝いするものである。

序 言

すでに消失した契丹人の言語を復元し、さらにそれを通じて契丹人の歴史を探るのに、現時点で依拠しうるのは、10世紀中葉から12世紀前半という歴史的時期に契丹文字で書写された各種遺物である。これらの遺物は数量・内容ともに非常に豊富であり、漢文史料の限界を超えて、契丹文明の全貌およびその内部に具有された多彩で活力のある隣接文明の要素を明らかにしつつある。近年の遼金時代考古学が遂げつつある長足の進歩によって、遺物の数量は持続的に増加する趨勢にある。ここではそれらを契丹文字資料と汎称することにする。

『遼史』によれば、遼太祖神冊四年（920）に契丹大字、遼太宗天贊三年（924）または四年（925）に契丹小字が製作されたが、『金史』によれば、二種の文字の使用は金章宗明昌二年（1191）に停止している。しかしながらどれが大字でどれが小字かという問題は、1922年に長編の契丹文字資料が始めて世の中に姿を現した頃から、長期にわたって諸説紛紛で、是非を決めがたくなっていた。清朝最後の公爵たる愛新覺羅恒煦（金光平）先生²⁾は、契丹文字・女真文字研究における名高い先駆者である。1957年に『蕭孝忠墓誌』を研究した上で、高論「錦西西孤山契丹文墓誌試釈」において、墓誌に刻されている文字は契丹大字であると認定し、中国の考古学専門誌『考古学報』に発表した。今日では、金光平先生の契丹大字に対する論断はすでに学界に公認されている正確な結論となっている。ここで、契丹文字研究にあたって先駆的意義をもつ論文「錦西西孤山契丹文墓誌試釈」の要点をまとめると、次の如くである。

一、契丹字には、大字と小字の二種類があり、大字の制作及び頒布は遼太祖神冊五年（920）にあり、隸書漢字の筆画を増減することによって制作された。小字に関しては、頒布年月が記録されておらず、ただ遼太祖のときに「回鶻使至、迭刺習其言與書、因製契丹小字」とあり、時間的には、大字制作以後にあたるはずである。現存する二種類の契丹字につき、慶陵石刻文字は契丹大字で、錦西石刻文字は契丹小字であると一般に論ぜられているが、問題がある。慶陵石刻契丹字には、独体字もあり、複合字もある。複合字は、2個ないし7個の字を複合して組み合わせるものである。ここから見れば、契丹語は多音節言語で、単語ごとに音節数が違うことが、文字に表現される際に、複合字中の字数に関連することがわかる。錦西石刻契丹字は、慶陵石刻契丹字とちょうど反対で、字形は簡単で、整っている。しかも女真文字とよく似ている。制作の方法から見れば、漢字をそのまま借用したり、漢字の筆画を変化させたりしていることがわかる。『遼史』のいわゆる「隸書之半増損之」によって作られた契丹大字は、錦西石刻契丹字に当たるが、慶陵石刻契丹字の方は回鶻表音文字をまねているものなので、遼太祖の弟である迭刺が作った契丹小字に当たる。

二、女真字にも大字・小字の種別がある。大字は金太祖が完顔希尹に作らせたもので、天輔三年（1119）に頒布された。その後、金熙宗は皇統五年（1145）に女真小字を作り、女真大字とともに併用した。また『金史』完顔勗伝に、完顔希尹が契丹字に倣って女直字を作ったとある。『華夷訳語』と金・明両代の石刻に現れる女真字を慶陵石刻契丹字と比べると、字体が一致しないが、錦西石刻契丹字と字体が接近しているところから、女真字は契丹字と漢字をモデルとし、筆画増減によって制作されたものであることがわかる。よって、現存している女真字は錦西石刻契丹字の模造品であることを断定できる。

三、山路広明『契丹文字の研究』の、表意字は大字、表音字は小字、慶陵石刻契丹字は大小字混用の文字という説は正確でない。氏は錦西石刻契丹字を見たことがないので、こういった想像に調和を加えた説をなしていたのである。

四、1937年に発見された『故太師銘石記』は、契丹字で刻されたもので、錦西石刻契丹字と同じ種類の文字である。李文信氏の研究（『契丹小字「故太師銘石記」之研究』）における、偽造と見なす説は、不適當である。

現時点で確認される紀年をもった契丹文字資料はすでに遼・金二王朝に渡っている。2007年、筆者の発見によって契丹大字資料の上限は遼穆宗應曆十年（960）³⁾、下限は金世宗大定十六年（1176）⁴⁾となり、2012年、同様に筆者の発見によって契丹小字資料の上限は遼興宗重熙二十年（1051）⁵⁾、下限は金世宗大定十五年（1175）⁶⁾となった。無紀年ないし断片的な資料にまで視野を広げれば、この区間はさらに延長しうるであろう。例えば、遼太祖陵の墓域で発見された石碑の断片は、契丹大字で刻まれており、その年代は必ずや960年より早い。カザフスタン南部で発見された契丹大字十二支符牌及び中国新疆沙雅で発見された西遼時代の契丹大字銅印はともに時代的に1176年より下る可能性がある。

文字制作が完了した10世紀、遼代前期には、契丹小字の使用はさほど広範囲にわたるものではなかったようである。およそ遼代中期から契丹小字の使用は契丹大字を大いに超えるようになり、そうした優勢を最後までに保持した。現存の契丹文字資料においては、小字の数量は大字の三倍になる。「大字」「小字」の呼称は、漢文史籍に見えるが、契丹人自身が大字を「正字」または「大印の字」・小字を「仲印の字」⁷⁾と称したことは、契丹文字資料だけに見える。漢文史籍は、契丹大字と契丹小字の制作時期に前後の区別があることを記すだけで、使用上の異同については全く触れ

ていない。現時点で発見されている遼朝の官印に用いられた契丹文字はすべて大字であって、小字のは私印にしか用いない。契丹人が契丹大字を「大印の字」と称することは、具体的な用途に基づく命名ではないかと考えられる。

2013年3月までに出現した契丹文字資料に基づき統計し得た最新の数値によれば、契丹大字1028字（異体字を数えない）の内839字、契丹小字345字（異体字を数えない）の内310字の解読を達成している。

契丹文字資料は形態上、刻銘、墨書、鑄銘の三種に分類される。刻銘の対象は、主に岩壁・石材・金属器・磁器・玉器である。墨書の対象は、主に土壁・絹織物・紙類・皮革・木器・磁器の底部である。鑄銘の対象は、主に金属器と陶器である。

契丹文字資料は内容から四類に分類される。第一類は死者の生涯と系譜を記述する「墓誌」・「墓碑」・「神道碑」・「墓壁墨書」で、数十字から数千字まで一定しない。第二類は行記や留言の「碑文」・「題壁」・「石刻」で、一般的に字数が少ない。第三類は絵画の題字と副葬用の「帛畫」・「帛書」で、字数は数個より数百まで一定しない。第四類は器物製作の目的や器物の名称を説明する「錢文」・「印文」・「鏡銘」・「陶瓷器落款」で、字数は最も少ない。従って、契丹人の言語と歴史を研究するのに、最も大きな価値をもつのは、第一類にほかならない。

本稿では契丹文字の主な資料として、この第一類を紹介する。これらを契丹文墓誌と汎称する。現在までに発見されている契丹文墓誌の一部には漢文墓誌が併存している。ただし、漢文墓誌は契丹文字解読には限定的な参考価値しかもたない。それは両者が完全に対訳されたものが全くないからである。たとえ「対訳」のように見えても、互いにかかわりをもたない語彙表現の存在を顧みずに「解読」することは、誤解をもたらさざるを得ない。典型的な例を挙げると、金太宗天会十二年（1134）に刻された『大金皇弟都統経略郎君行記』は契丹小字・漢字の合璧碑文であり、漢字の末行に「右譯前言」という4字が書かれることで、長期にわたって二種の文字で刻まれる内容是对訳と誤認されてきた。筆者が2004年にその誤認を是正するまで⁹⁾、碑文の5行目の後半の文字（すなわち書写者の署名の部分）は以下のように誤訳されていた。

𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏
 有 郡 刺史 従行 名 王 圭 奉 題
 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏
従行 字 尚 書 職 方 郎 中 黄 応 期 題

しかしながら、筆者の解読によって証明されたように、𐰇𐰏𐰏𐰏 *puswər*⁹⁾と𐰇𐰏𐰏𐰏 *dziaugui*は漢語「刺史」と「従行」の対訳ではなく、それぞれ契丹語の人名「蒲速里」（遼代漢文墓誌に「蒲速幹」「蒲速幹然」、『元史』に「蒲速窩児」とも音訳される）と「漢児」（本義は「趙国」¹⁰⁾）の女性形である¹¹⁾。従って、訳文を以下のように改めなければならない。

𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏
 有 郡 蒲速里 漢児 名 王 圭 奉 題
 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏 𐰇𐰏
漢児 字 尚 書 職 方 郎 中 黄 応 期 題

王圭本人は契丹人で、契丹名を「蒲速里」とし、「王圭」は彼の漢名であること、黄応期が任ぜられた官職は「漢字尚書職方郎中」とすべきことがわかる。

しかも漢文墓誌が契丹人の歴史的活動と文化の全容を解明することは期待できない。それは漢人の理解できない重要な内容を往々にして省略しているからである。だから、契丹人独自の民族的特性を追究するには、契丹文墓誌を主とする契丹文字資料に拠らなくてはならない。契丹学における巨大な突破口の獲得——契丹語学と契丹史学の再構築——を図るには、契丹文墓誌の解読と研究が不可欠の基礎となっている。契丹文墓誌の最大の特徴は「兼筆直書」であり、それは無文字時代の口伝の歴史を継承し、内容的には契丹人の家族の系譜を多くそのまま書写している。契丹文字の系譜は、今日実見しえないことはいまでもないが、漢文墓誌を書写した同時代の漢人もこれを実見する資格をもたなかったようである。漢文墓誌に頻見する契丹人系譜の誤脱や錯誤からこのように推測しうる。

契丹文字は創制から廃止まで、遼金二王朝を跨ぐ 270 余年を経過し、文字には、時代の変遷による契丹語音韻と文法の変異の痕跡がはっきり看取され、その内容には、漢文史料に見えないか、あるいは誤って記述された契丹の歴史の本来の姿がそのまま残されている。ゆえに、契丹文墓誌に対する研究は、言語と歴史のいずれかに偏ることなく、双方に通じていなければならない。

現在までに発見された契丹文字墓誌の数量は、公開されたものに限れば、大字墓誌 16 件、小字墓誌（碑文）43 件にそれぞれ達している。遼興宗帝後の哀冊は石がつとに亡逸し、ベルギーのカトリック宣教師 L.Kervyn の写本しか残されていない。墓誌が存在しているものの、信憑性のない写本のみ発表されたものは多数ある。さらに、所蔵者が解読できないために公開を拒み、死蔵されているものも数件もある。例えば、内蒙古大学には未公開の少なくとも 4 件の契丹小字墓誌と 3 件の契丹大字墓誌が収蔵されている。3 件の大字墓誌は同大学博物館に展示されているが現代人の偽作にすぎない。死蔵のものや偽物を除き、本稿では筆者が実見したうえに解読研究を行ったものを対象として時代順に紹介することにする。

凡 例

1. 本稿が依拠する契丹文墓誌の原文は、筆者の 2013 年 3 月に作成に係る『契丹大字墓誌全釈』と『契丹小字墓誌全釈』（未刊）による。
2. 契丹語の人名はすべて漢字をもって表す。その他の固有名詞については、漢文史料に対応があるものは漢字、無いものは片仮名でそれぞれ表記する。
3. 契丹文墓誌原文のローマ字転写は、平成 22 年度文科省科研費基盤研究成果報告書『契丹語諸形態の研究』に従い、それに基づいて片仮名に転写するものである。
4. 墓主の系譜において、男性は文字囲み□で、女性は文字囲み◻でそれぞれ表示する。直系の続柄は矢印↓で、承帳は斜線いでそれぞれ表記する。

一 契丹大字墓誌

§1 『痕得隱太傅墓誌』(遼穆宗應曆十年 960 五月二十八日)

出土地：内蒙古阿魯科爾沁旗。

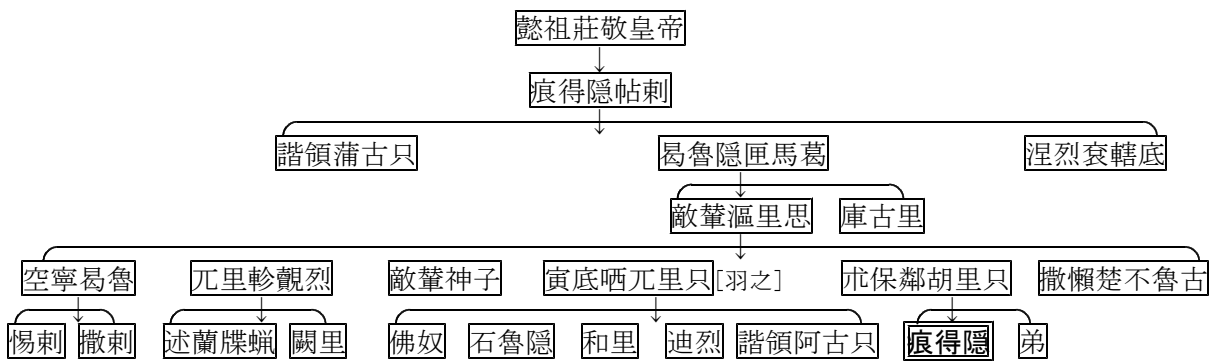
墓誌形態：石の行方は不明。拓本の1枚に24行の契丹大字誌文。もう1枚に33行の漢字「上国都監太傅墓誌銘」。両文字で書かれた内容は非対訳。

墓主：痕得隱[墓主の「字」¹²⁾] (遼太祖八年 914 ~ 遼穆宗應曆九年 959)。享年 46 歳。

房族：六院夷離堇房。

出典：『愛新覺羅烏拉熙春女真契丹学研究』(松香堂、2009 年) pp.237-247。『韓半島から眺めた契丹・女真』(京都大学学術出版会、2011 年) pp.9-30。『新出契丹史料の研究』(松香堂、2012 年) pp.166-167。

系譜：



§2 『耶律延寧墓誌』(遼聖宗統和四年 986)

出土地：遼寧省朝陽県西五家子郷柏樹溝村西北に位置する柏木山の斜面。

墓誌形態：石の上部に19行の契丹大字誌文。下部に21行と左縁に3行、合計24行の漢字誌文。両文字で書かれた内容は非対訳。

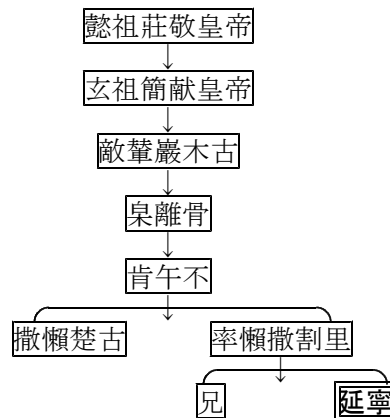
所蔵機関：遼寧省博物館。

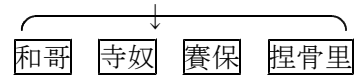
墓主：延寧[墓主の「字」] (遼太宗大同元年 947 ~ 遼聖宗統和三年 985)。享年 39 歳。

房族：孟父房。

出典：『契丹大字研究』(東亜歴史文化研究会、2005 年) pp.65-66。

系譜：





§3 『霞里隱大王墓誌』（遼興宗重熙十年 1041）

出土地：内蒙古阿魯科爾沁旗坤都鎮烏森義和嘎查の西山。

墓誌形態：旧契丹大字石刻を抹消した後に制作した。蓋に 1 行の篆書漢字「北大王墓誌」。蓋の裏に 21 行の漢字誌文。六行目の下に旧石刻にある契丹大字之が残存)。石に 27 行の契丹大字誌文。両文字で書かれた内容は非対訳。

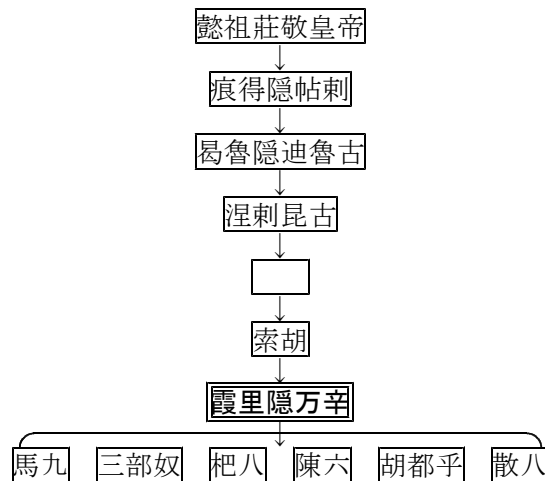
所蔵機関：阿魯科爾沁旗博物館。

墓主：霞里隱[墓主の「字」。その名「万辛」は、漢文墓誌に見える]（遼景宗保寧五年 973 ～遼聖宗重熙十年 1041）。享年 69 歳。

房族：六院夷離堇房。

出典：『契丹大字研究』 pp.53-55。『契丹文墓誌より見た遼史』（松香堂、2006 年） pp.112-115。『新出契丹史料の研究』 pp.166-167。

系譜：



§4 『可汗横帳孟父房涅鄰劉家奴詳穩墓誌碑銘』（遼興宗重熙二十年 1051 十月二十二日）

出土地：不明。

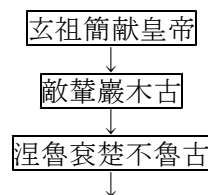
墓誌形態：石は行方不明。拓本は個人収蔵。蓋に篆書漢字「故太師銘石記」。拓本に 42 行の契丹大字誌文。

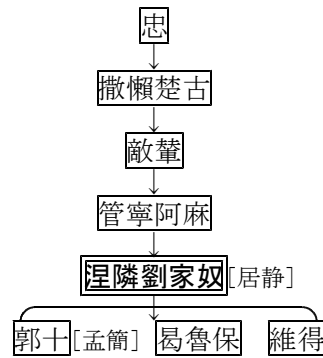
墓主：涅鄰劉家奴[涅隣は墓主の「字」。劉家奴は墓主の「名」。その漢風名は「耶律居靜」]（遼聖宗統和二十年 1002 ～遼興宗重熙二十年 1051）。享年 50 歳。

房族：孟父房。

出典：『契丹文墓誌より見た遼史』 pp.145-158。『新出契丹史料の研究』 pp.156-157,168-169。

系譜：





§5 『奪里不里郎君位誌銘』（遼道宗大康七年 1081 三月十五日）

出土地：内蒙古阿魯科爾沁旗罕廟蘇木古日班呼舒嘎查新村から西北に 1.5km 離れた朝克図山南麓（耶律羽之家族の墓域）。蘇木政府所在地の巴彥呼舒は、旗政府所在地の天山鎮から北に 100km 離れている。古日班呼舒嘎查は巴彥呼舒から東南に 19km 離れている。墓地からその西南を流れる海哈爾河北段（即ち遼代の陶猥思河、漢語で「土河」と意識）までわずか 6km である。

墓誌形態：石の表に 15 行、裏に 6 行の契丹大字誌文。

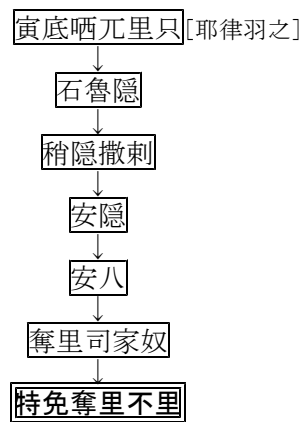
所蔵機関：阿魯科爾沁旗博物館。

墓主：特免奪里不里[特免は墓主の「字」。奪里不里は墓主の「名」]（遼興宗重熙七年 1038 ～遼道宗大康六年 1080）。享年 43 歳。

房族：六院夷離堇房。

出典：『契丹文墓誌より見た遼史』 pp.142-145。『新出契丹史料の研究』 pp.166-167。

系譜：



§6 『故撻不衍觀音太師墓誌』（遼道宗大康十年 1084 六月五日）

出土地：内蒙古赤峰市元宝山区小五家子回族郷大營子村。

墓誌形態：蓋に 3 行の契丹大字楷書「故撻不衍觀音太師の墓誌」。石に 30 行の契丹大字誌文。

同墓より出土した別石に漢字『大横帳故建雄軍節度使崇祿大夫檢校太師右千牛衛上將軍知涿州軍州事耶律昌允妻蘭陵郡夫人蕭氏墓誌銘』（遼道宗大安八年 1092）とあり、その墓主は撻不衍觀音の妻魯氏夫人。蓋が無い。石に 35 行の漢字誌文。

所蔵機関：赤峰市元宝山区文物管理所。

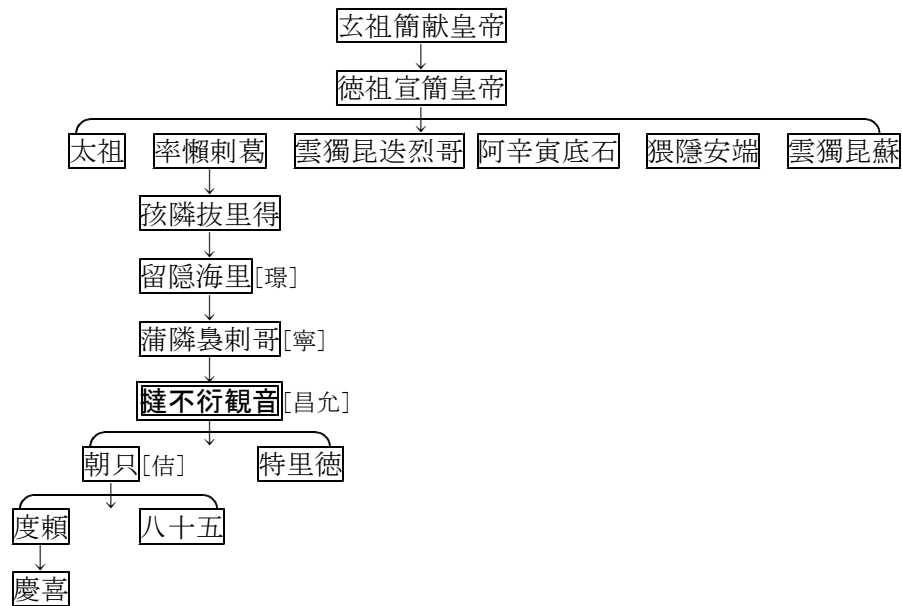
墓主a：撻不衍觀音[撻不衍は墓主の「字」。觀音は墓主の「名」。その漢風名は「耶律昌允」]（遼聖宗統和十

八年 1000～遼道宗清寧七年 1061)。享年 62 歳。

房族a：季父房。

出典：『契丹文墓誌より見た遼史』 pp.181-201。『新出契丹史料の研究』 pp.157-158,171-172。

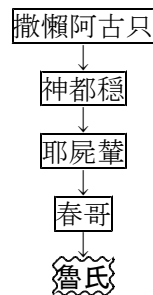
系譜a：



墓主b：魯氏夫人（遼聖宗統和二十九年 1011～遼道宗大安七年 1091)。享年 81 歳。

房族b：拔里国舅小翁帳。

系譜b：



§7 『フリジ契丹国六部遙里撒里必石烈阿縵太師墓誌』（遼道宗大安五年 1089 十二月二十五日）
 出土地：遼寧省錦西県（今の葫蘆島市連山区）の虹螺山から西に 14km 離れた女兒河彎曲部の北岸に位置する孤山子村。

墓誌形態：蓋に漢字「蕭孝忠墓誌」。蓋の裏に 12 行の漢字誌文。石に 18 行の契丹大字誌文。両文字で書かれた内容は非対訳。

所蔵機関：錦州市博物館。

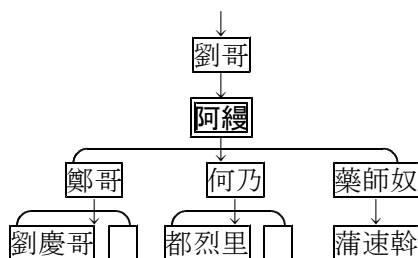
墓主：阿縵[墓主の「字」。その漢風名は「蕭孝忠」] (?～大安五年 1089)。

房族：奚遙里部撒里必石烈。

出典：『契丹大字研究』 pp.60-61。『愛新覺羅烏拉熙春女真契丹学研究』 pp.277-285。

系譜：

烈虎



§8 『茂古乃乙辛隱袍里宰相勅葬墓誌』（遼道宗大安六年 1090 三月十九日）

出土地：遼寧省法庫県柏家溝鎮前山村から東北に 2.5km 離れた山谷。墓は東西に走る山谷の北山の南斜面にあり、遼河から西に 7.5km 離れている。

墓誌形態：蓋に 3 行の篆書漢字「故北宰相蕭公墓誌銘」。蓋の裏に 15 行の契丹大字誌文。石に 38 行の漢字誌文。両文字で書かれた内容は非対訳。

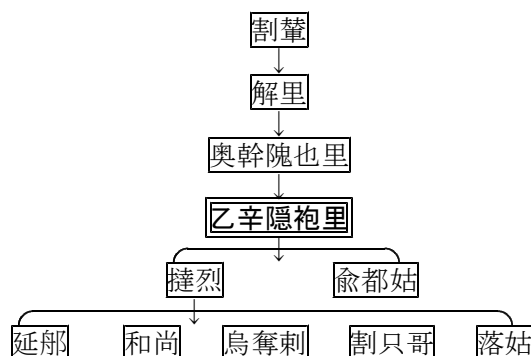
所蔵機関：遼寧省博物館。

墓主：茂古乃乙辛隱袍里[茂古乃は墓主の「姓」。乙辛隱は墓主の「字」。袍里は墓主の「名」。漢文墓誌に「袍魯」と音訳される]（遼聖宗開泰六年 1017 ～遼道宗大安五年 1089）。享年 73 歳。

房族：六院茂古乃。

出典：『契丹大字研究』 pp.59-60。『新出契丹史料の研究』 pp.190-191。

系譜：



§9 『大中央フリジ契丹國烏隗部曷魯夷離董帳故西北路招討訛都宛太傅妻永寧郡公主位誌銘』（遼道宗大安八年 1092 三月二日）

出土地：内モンゴウバリン左旗宝力罕吐郷王家溝村。墓誌によれば、嵩山の南斜面にある墓の所在地である盤龍崗は、潢水から北に 15km 離れているという。この「潢水」は今の烏力吉沐倫河の西段にはかならない。

墓誌形態：蓋に 3 行の篆書漢字「故永寧郡公主墓誌銘」。石に 36 行の契丹大字誌文。

同墓より出土した別石に 26 行の漢字『故守太子太保西北路招討使三十萬兵都統軍蕭公墓誌銘』（遼道宗大安三年 1087）があり、その墓主は永寧郡公主骨浴の夫蕭興言（訛都宛）である。

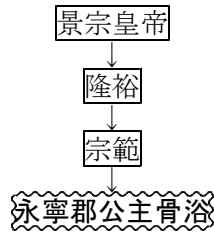
所蔵機関：遼上京博物館。

墓主a：永寧郡公主骨浴[骨浴は墓主の名]（遼興宗重熙二年 1033 ～遼道宗大安七年 1091）。享年 59 歳。

房族a：景宗皇帝系。

出典：『契丹大字研究』 pp.61-65。『愛新覺羅烏拉熙春女真契丹学研究』 pp.231-234。

系譜a :

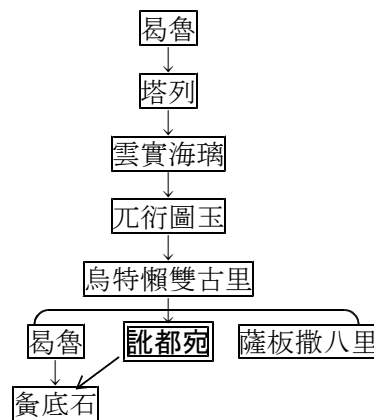


墓主b : 訛都宛[墓主の「字」。その漢風名は「蕭興言」。『遼史』は語尾子音-n を省略して「訛都幹」と音訳する]
 (遼興宗景福二年 1032 ~ 遼道宗大安三年 1087)。享年 56 歳。

房族b : 烏隗部。

出典 : 『愛新覺羅烏拉熙春女真契丹学研究』 pp.231-234。『新出契丹史料の研究』 p.241。

系譜b :



§ 10 『大フリジ契丹国六院四十万宗室大王同政事門下平章事四字功臣休堅大王位誌』 (遼道宗寿昌二年 1096 十月十七日)

出土地 : 内蒙古阿魯科爾沁旗罕廟蘇木古日班呼舒嘎查新村から西北に 1.5km 離れた朝克図山南麓 (耶律羽之家族の墓域)。

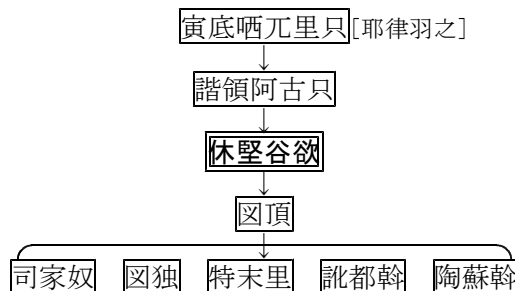
墓誌形態 : 石の表に 23 行、裏に 24 行の契丹大字誌文。

墓主 : 休堅谷欲[休堅は墓主の「字」。谷欲は墓主の「名」] (遼穆宗應曆十年 960 ~ 遼興宗重熙十年 1041)。享年 82 歳。『遼史』 卷一百四に伝がある¹³⁾。

房族 : 六院夷離董房。

出典 : 『新出契丹史料の研究』 p.150,156, pp.166-168。

系譜 :



§ 11 『横帳季父房耶律特麼墓誌碑銘』（遼道宗寿昌四年 1098）

出土地：不明。

墓誌形態：石に約 40 行の契丹大字誌文。

墓主：特麼[墓主の名] (?～遼道宗寿昌四年 1098)。『遼史』卷九十五に伝がある¹⁴⁾。

房族：季父房。

出典：『契丹大字墓誌全釈』。

§ 12 『大中央フリジ國興寧太師妻夫人墓誌碑銘』（遼道宗寿昌六年 1100 四月一日）

出土地：不明。

墓誌形態：石に 24 行の契丹大字誌文。

墓主：定哥夫人（遼道宗清寧元年 1055 ～寿昌四年 1098）。享年 44 歳。

出典：『契丹大字墓誌全釈』。

§ 13 『大フリジ國撒班枢密齐王位誌銘』（遼天祚帝乾統八年 1108 五月某日）

出土地：内蒙古阿魯科爾沁旗罕廟蘇木の古日班呼舒嘎查新村から西北に 1.5km 離れた朝克図山東麓（耶律羽之家族の墓域から東北に約 2km 離れている）。朝克図山は、遼代には「烈山」といった。墓誌形態：蓋に 3 行の契丹大字楷書「大フリジ国の撒班枢密齐王の位誌銘」。石に 46 行の契丹大字誌文。漢文墓誌は破損していた。

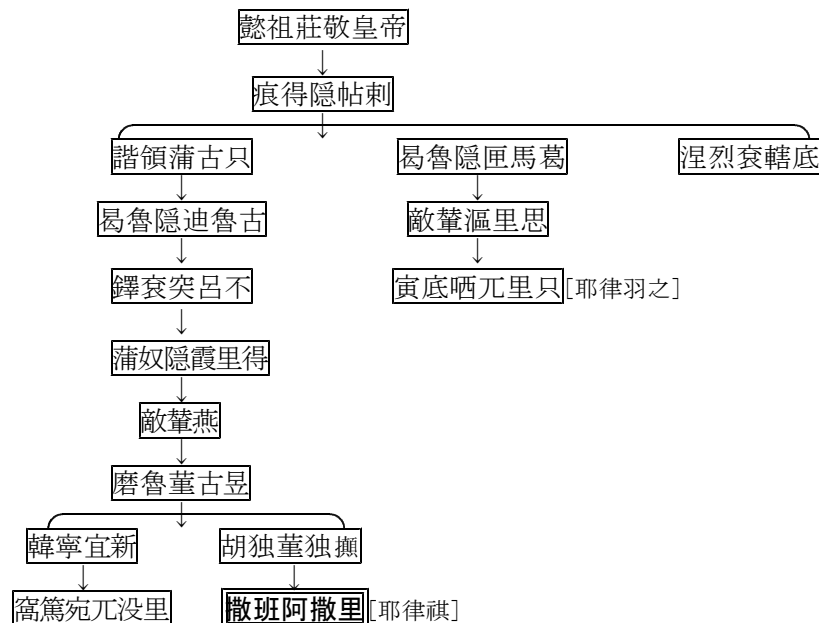
所蔵機関：内蒙古文物考古研究所。

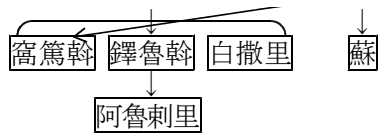
墓主：撒班阿撒里[撒班は墓主の「字」。阿撒里は墓主の「名」。『遼史』は語尾音韻を省略して「阿思」と音訳する。その漢風名は「耶律祺」]（遼興宗重熙三年 1034 ～遼天祚帝乾統八年 1108）。享年 75 歳。『遼史』卷九十六に伝がある¹⁵⁾。

房族：六院夷離董房。

出典：『契丹文墓誌より見た遼史』 pp.115-123。『新出契丹史料の研究』 pp.155-156, pp.166-168。

系譜：





§ 14 『大中央契丹國惕隱司仲父房習涅副使墓誌』（遼天祚帝天慶四年 1114 三月二十五日）

出土地：内蒙古赤峰市巴林左旗烏蘭壩蘇木浩爾吐嘎查。墓地に臨む浩爾吐河は、遼代には「横水」といい、墓地の所在する山は、遼代には「嘉鹿山」といった。

墓誌形態：蓋に 3 行の篆書漢字「大横帳節度副使墓誌」。蓋の裏に 37 行の契丹大字誌文。石に 26 行の漢字誌文。両文字で書かれた内容は非対訳。

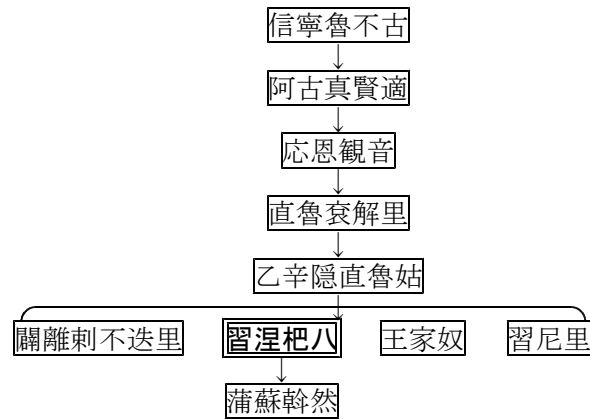
所蔵機関：遼上京博物館。

墓主：習涅把八〔習涅は墓主の「字」。把八は墓主の「名」〕（遼道宗清寧九年 1063 ～遼天祚帝天慶三年 1113）。享年 51 歳。

房族：仲父房。

出典：『契丹文墓誌より見た遼史』 pp.178-181。『新出契丹史料の研究』 pp.156-157, 169-171。

系譜：



§ 15 『大金国先父郎君墓誌銘』（金世宗大定十六年 1176 八月十一日）

出土地：不明。

墓誌形態：石・拓本ともに行方不明。写本に 16 行の契丹大字誌文。

墓主：先父郎君（遼天祚帝天慶三年 1113 ～金世宗大定十六年 1176）。享年 64 歳。

房族：拔里国舅帳。

出典：『契丹大字墓誌全釈』。

§ 16 『迪烈司徒墓碑』

出土地：内蒙古赤峰市松山区孤山子郷馬梁村。

墓碑形態：表に 2 行、裏に 2 行合計 30 個の契丹大字。

所蔵機関：赤峰市松山区文物管理所。

墓主：迪烈。

出典：『契丹大字墓誌全釈』。

二 契丹小字墓誌

§1 『烏隗烏古里部宸安軍節度使檢校太傅食邑五百兀古隣太師墓誌銘』（遼興宗重熙二十年 1051 二月二十八日）

出土地：内蒙古扎魯特旗。

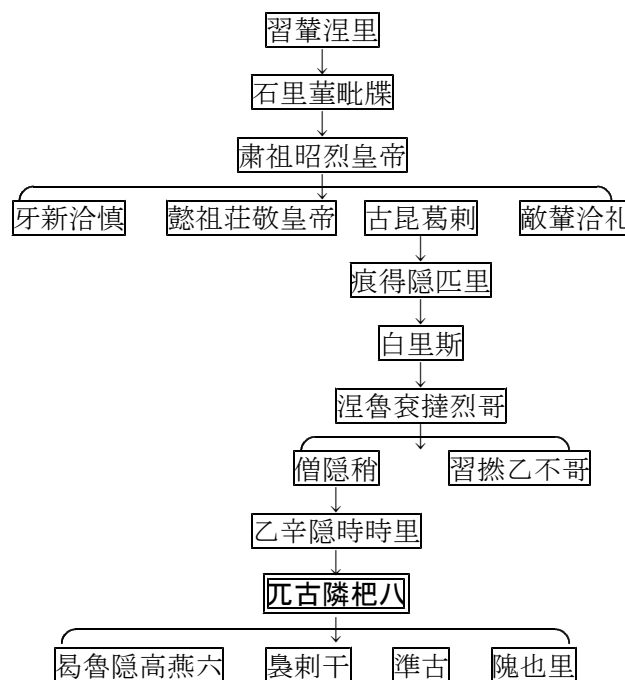
墓誌形態：蓋の中央に 1 個の楷書漢字「笔」、右側に 1 行の契丹大字「習輦乙不哥 書いた」。石に 24 行、その続きの 25 行は蓋の裏へ。石の側面に 3 行（上 1 行、下 2 行）、合計 52 行の契丹小字。

墓主：兀古隣杷八[兀古隣は墓主の「字」。杷八は墓主の「名」。その漢風名は「耶律迪」（遼聖宗統和十一年 993 ～遼興宗重熙三年 1034）。享年 42 歳。

房族：六院郎君房。

出典：『新出契丹史料の研究』 p.155, pp.158-165。

系譜：



§2 『大中央契丹フリジ国故廣陵郡王墓誌銘』（遼興宗重熙二十二年 1053 八月十二日）

出土地：遼寧省北鎮滿洲族自治県鮑家郷高起村から西北に約 1.5km 離れた山谷。

墓誌形態：蓋に 3 行の篆書漢字「大契丹國廣陵郡王墓誌銘記」、蓋の裏に 36 行の契丹小字、石に 33 行の漢字『故保義軍節度同中書門下平章事判奉先軍節度使事廣陵郡王墓誌銘』。両文字で書かれた内容は非対訳。

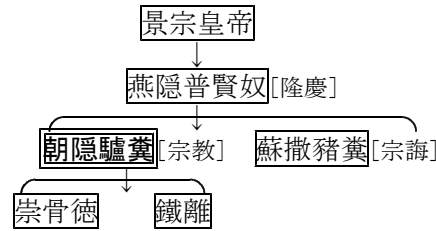
所蔵機関：遼寧省北寧市文物管理所。

墓主：朝隱驢糞[朝隱は墓主の「字」。驢糞は墓主の「名」。その漢風名は「耶律宗教」（遼聖宗統和九年 991 ～遼興宗重熙二十二年 1053）。享年 63 歳。

房族：景宗皇帝系。

出典：『契丹語言文字研究』（東亜歴史文化研究会、2004 年） pp.227-230。『韓半島から眺めた契丹・女真』 pp.110-111。

系譜：

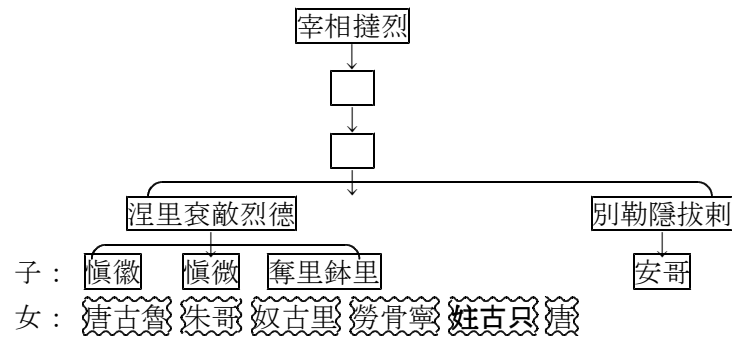


墓主の妻：姓古只

房族：乙室己国舅少父房。

出典：『韓半島から眺めた契丹・女真』 pp.48-52。『新出契丹史料の研究』 p.242。

系譜：



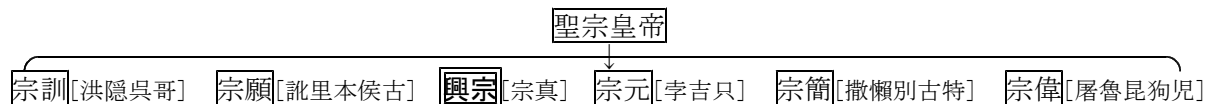
§ 3 『興宗皇帝哀冊』（遼道宗清寧元年 1055 十一月）

出土地：内蒙古巴林右旗索博日嘎蘇木瓦林茫哈の東陵（永興陵）。

墓誌形態：石は行方不明。写本のみ世に伝わる。写本に 36 行の契丹小字誌文。

墓主：興宗皇帝諱夷不董只骨[宗真]（遼聖宗開泰五年 1016 ～遼興宗重熙二十四年 1055）。享年 40 歳。

系譜：



§ 4 『高隱太師墓誌銘』（遼道宗清寧三年 1057 二月）

出土地：遼寧省阜新市清河門区西山村。

墓誌形態：蓋には文字無し。石に 32 行の契丹小字誌文。

所蔵機関：遼寧省博物館。

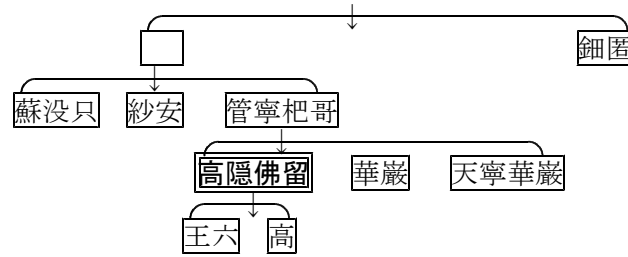
墓主：高隱福留[高隱は墓主の「字」。福留は墓主の「名」]（遼聖宗統和十五年 997 ～遼興宗重熙二十三年 1054）。享年 58 歳。

房族：乙室己国舅少父房。

出典：『新出契丹史料の研究』 p.242。

系譜：

延寿隱



§ 5 『控骨里太尉妻胡觀古娘子墓誌』（遼道宗清寧年間）

出土地：遼寧省法庫県法庫鎮から西南に約 50km 離れた葉茂台鎮西北の丘。

墓誌形態：石は破損状態。6 行の契丹小字が残存。

所蔵機関：遼寧省博物館。

墓主：胡觀古。

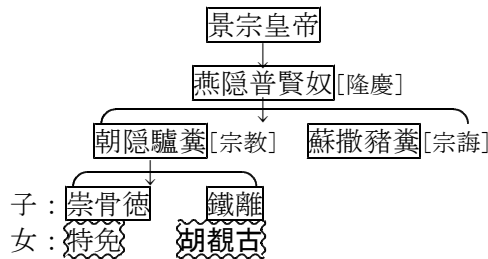
房族：景宗皇帝系。

その夫控骨里の房族は、拔里国舅大翁帳。同墓域から出土した漢字『蕭義墓誌銘』（遼天祚帝天慶二年 1112）の墓主蕭義（胡独董常哥）は、天祚帝徳妃の父。二人の続柄はなお不明。

出典：「烏拉熙春教授掲密法庫県葉茂台 23 号遼墓墓主身世」。

http://article.netor.com/article/memtext_95001.html

系譜：



§ 6 『国舅楊隱宰相楊隱司蒲奴隱尚書墓誌銘』（遼道宗咸雍四年 1068 七月九日）

出土地：遼寧省阜新蒙古族自治县太平郷大道村四家子屯から北に 1.5km 離れた佛手山。この山が属する山脈は、遼代にはティリゲメ山といった。佛手山にある 4 基の墓は、悉く蒲奴隱図古辞一系に属するものである。

墓誌形態：蓋には文字無し。石に 26 行の契丹小字誌文。

所蔵機関：遼寧省文物考古研究所。

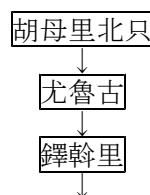
墓主：蒲奴隱図古辞[蒲奴隱は墓主の「字」。図古辞は墓主の「名」]（開泰七年 1018 ～咸雍四年 1068）。

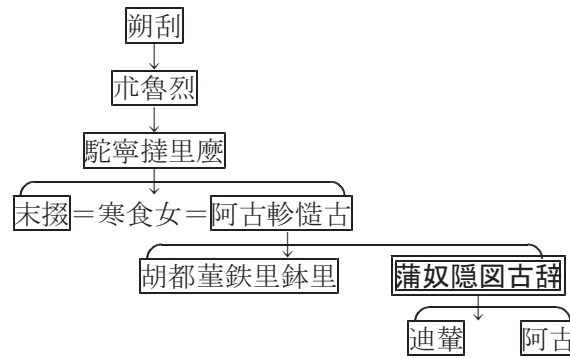
享年 51 歳。

房族：拔里国舅夷離畢帳。

出典：『韓半島から眺めた契丹・女真』 pp.30-41。『新出契丹史料の研究』 pp.222-227。

系譜：





§7 『大中央フリジ契丹国故左龍虎軍上將軍正亮功臣檢校太師只克昱徹穩墓誌』（遼道宗咸雍七年 1071 八月二十日）

出土地：内蒙古敖漢旗新惠鎮から東南に 35km 離れた貝子府鎮の後山。

墓誌形態：蓋には文字無し。石に 46 行の契丹小字誌文。

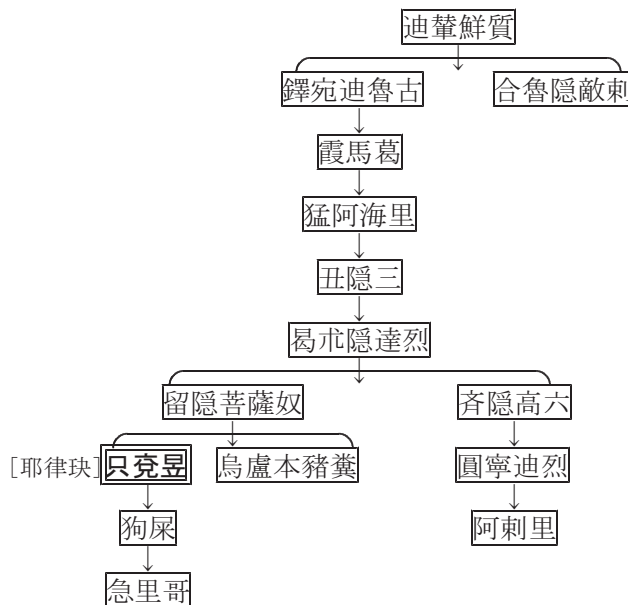
所蔵機関：新州博物館。

墓主：只克昱[只克は墓主の「字」。昱は墓主の「名」。その漢風名は「耶律玦」（遼聖宗開泰三年 1014 ～ 遼道宗咸雍六年 1070）。享年 57 歳。『遼史』卷九十一に伝がある¹⁶⁾。

房族：孟父房遙輦氏迪輦鮮質可汗帳。

出典：『新出契丹史料の研究』 pp.107-119。

系譜：



§8 『于越尚父守太傅糺鄰王墓誌碑銘』（遼道宗咸雍八年 1072 九月十九日）

出土地：遼寧省北票県小塔子郷蓮花山村。蓮花山は、遼代にはゲルメド（漢語音訳「葛婁姥」）といい、醫巫閭山脈に属する。墓は蓮花山南の東向きの山谷にあり、阜新市清河門区から西北に約 19km 離れている。同じ墓域から、漢字『耶律慶嗣墓誌』（遼道宗大安十年 1094）が出土した。墓主は糺鄰查刺の独子胡都董撻不也里である。

墓誌形態：蓋に 4 行の漢字「大遼國尚父于越宋王墓誌銘」。蓋の裏に 70 行の契丹小字誌文。石に漢

字誌文。両文字で書かれた内容は非対訳。

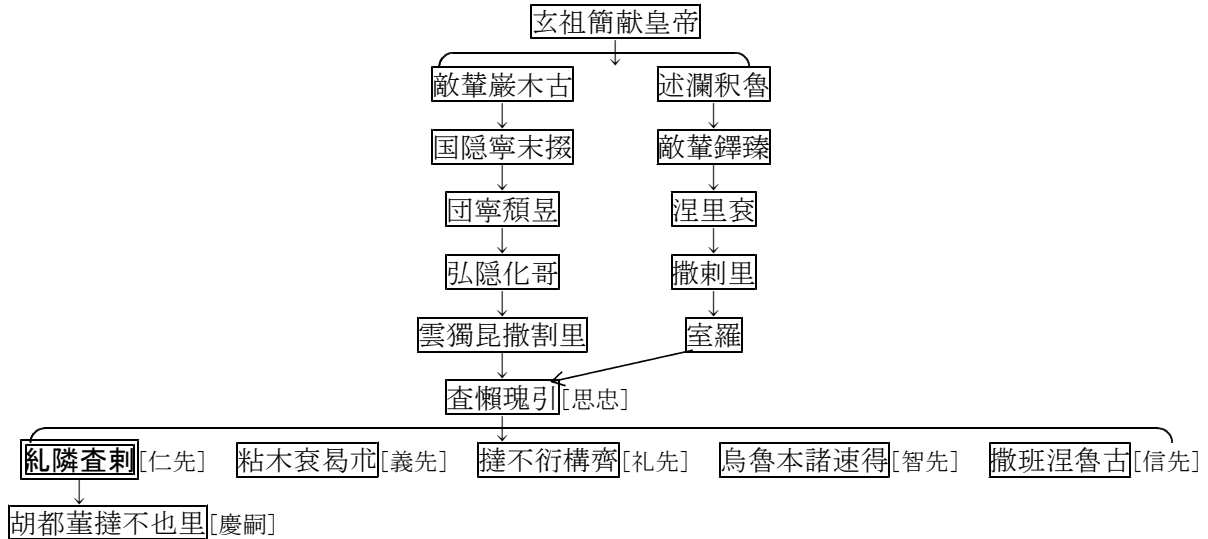
所蔵機関：遼寧省博物館。

墓主：糺鄰查刺[糺鄰は墓主の「字」。「查刺」は墓主の「名」。その漢風名は「耶律仁先」]（開泰二年 1013～咸雍八年 1072）。享年 60 歳。『遼史』卷九十六に伝がある¹⁷⁾。

房族：孟父房→仲父房。

出典：『契丹語言文字研究』 pp.263-284。『契丹文墓誌より見た遼史』 pp.160-166。『新出契丹史料の研究』 pp.156-157, 169-171。

系譜：



§ 9 『六部奚可汗五帳忒隣可汗帳德隱可汗奴太師墓誌』（遼道宗咸雍九年 1073 九月十四日）

出土地：赤峰市寧城県。

墓誌形態：石に 44 行の契丹小字誌文。

墓主a：德隱可汗奴[德隱は墓主の「字」。可汗奴は墓主の「名」]（遼聖宗統和二十八年 1010～遼道宗清寧七年 1061）。享年 52 歳。

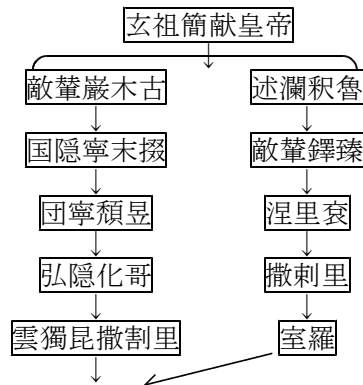
房族a：六部奚可汗五帳忒隣可汗帳。

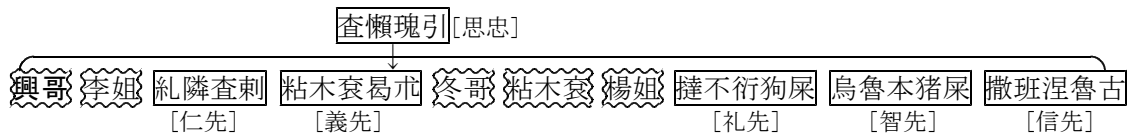
出典：平成 24 年度文科省科研費基盤研究成果報告書『契丹文字が伝える奚の歴史』。

墓主b：興哥夫人（遼聖宗統和二十八年 1010～遼道宗咸雍九年 1073）。享年 64 歳。

房族b：孟父房→仲父房。

系譜b：





§ 10 『仁懿皇后哀冊』（遼道宗大康二年 1076 六月）

出土地：内蒙古巴林右旗索博日嘎蘇木瓦林茫哈の東陵（永興陵）。

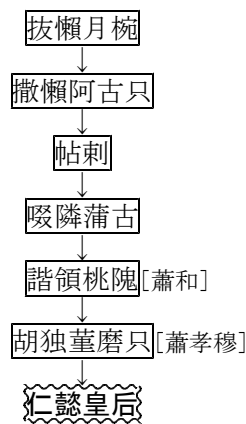
墓誌形態：石は行方不明。写本のみ世に伝わる。蓋に篆書漢字「仁懿皇后哀冊」。拓本に 32 行の契丹小字及び漢字誌文。

墓主：興宗仁懿皇后諱撻里（遼聖宗開泰三年 1014 ～遼道宗大康二年 1075）。享年 62 歳。

房族：拔里国舅小翁帳。

出典：『新出契丹史料の研究』 p.203。

系譜：



§ 11 『特免郭哥駙馬次妻曷魯里夫人墓誌碑銘』（遼道宗大康四年 1078 正月）

出土地：不明。

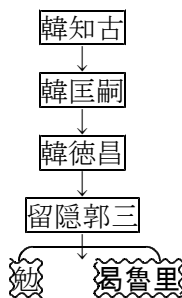
墓誌形態：石は行方不明。拓本は個人收藏。拓本に 35 行の契丹小字誌文。

墓主：曷魯里（?～遼道宗大康三年 1077）。

房族：季父房秦王帳。

出典：『愛新覚羅烏拉熙春女真契丹学研究』 pp.247-267。

系譜：



§ 12 『大中央フリジ契丹国外戚国舅宰相惕隱司回里堅審密墓誌』（遼道宗大康六年 1080 八月一日）

出土地：内蒙古通遼市奈曼旗青龍山鎮南溝（八里罕）屯から西北に 750m 離れた山の南斜面。この

山は、『国舅楊隱宰相惕隱司蒲奴隱尚書墓誌銘』の出土地である遼寧省阜新蒙古族自治县太平郷大道村四家子屯から北に 1.5km 離れた「佛手山」と同じ山脈に属し、遼代にはティリゲメ山またはティリメ山といった。八里罕から四家子屯（蒲奴隱図古辞墓）までの直線距離は約 10km。

墓誌形態：蓋に 3 行の契丹小字「大中央フリジ契丹国の外戚国舅宰相の惕隱司回里堅審密の墓誌」。石に 31 行の契丹小字誌文。

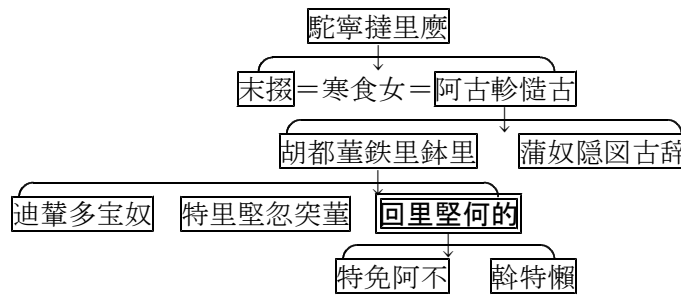
所蔵機関：北京科学匾額博物館。

墓主：回里堅何的[回里堅は墓主の「字」。何的は墓主の「名」] (?～遼道宗大康六年 1080)。

房族：拔里国舅夷離畢帳。

出典：『新出契丹史料の研究』 pp.204-234。

系譜：



§ 13 『大中央フリジ契丹国六院部蒲古只夷離董帳鉢里本墓誌』(遼道宗大康八年 1082 八月十一日)

出土地：内蒙古阿魯科爾沁旗。

墓誌形態：蓋に 2 行の契丹小字「大中央フリジ契丹国の六院部蒲古只夷離董帳の鉢里本バーの墓誌」。石に 28 行の契丹小字誌文。

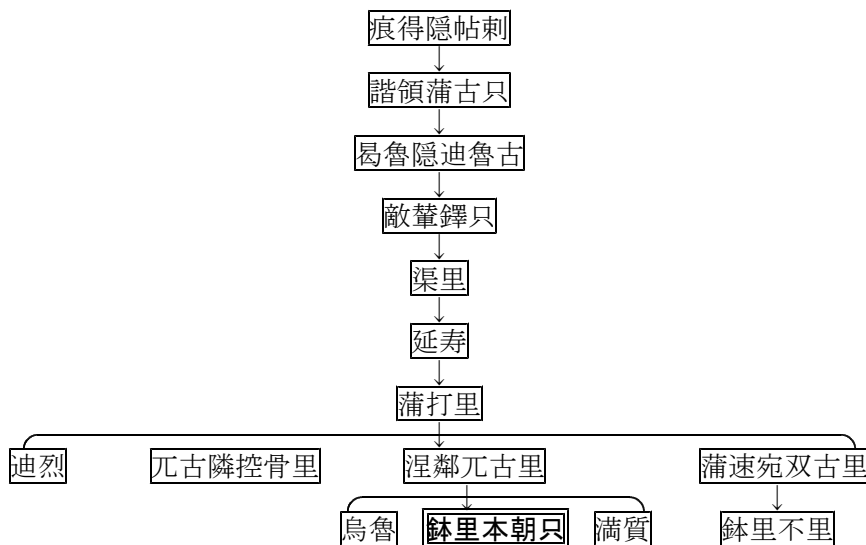
所蔵機関：遼上京博物館。

墓主：鉢里本朝只[鉢里本は墓主の「字」。朝只是墓主の「名」] (遼興宗重熙十三年 1044 ～遼道宗大康七年 1081)。享年 38 歳。

房族：六院夷離董房。

出典：『新出契丹史料の研究』 p.150, pp.165-168。

系譜：



§ 14 『永寧郎君墓誌銘』(遼道宗大安四年 1088 正月十三日)

出土地：内蒙古喀喇沁旗官營子郷(今の西橋郷)鄭家窩鋪村の大北溝。

墓誌形態：蓋は破損。石に 43 行の契丹小字誌文。

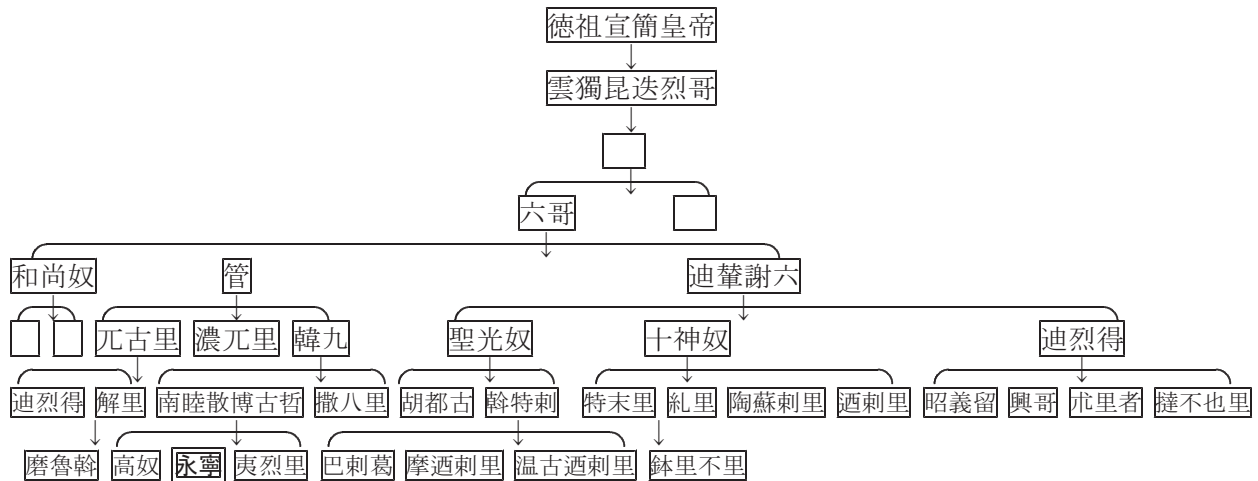
所蔵機関：喀喇沁旗博物館。

墓主：遙隱永寧[遙隱は墓主の「字」。永寧は墓主の「名」](遼道宗清寧五年 1059 ~ 大安元年 1085)。享年 27 歳。

房族：季父房。

出典：『契丹語言文字研究』 pp.236-239。『契丹文墓誌より見た遼史』 pp.181-201。『愛新覺羅烏拉熙春女真契丹学研究』 pp.228-230。『新出契丹史料の研究』 pp.171-172。

系譜：



§ 15 『大中央契丹国外戚国舅帳特里堅審密位誌銘』(遼道宗大安七年 1091 九月三十日)

出土地：内蒙古通遼市奈曼旗青龍山鎮南溝(八里罕)屯から西北に 750m 離れた山の南斜面。この山は、『国舅楊隱宰相惕隱司蒲奴隱尚書墓誌銘』の出土地である遼寧省阜新蒙古族自治县太平郷大道村四家子屯から北に 1.5km 離れた「佛手山」と同じ山脈に属し、遼代にはティリメ山といった。

八里罕から四家子屯(蒲奴隱図古辞墓)までの直線距離は約 10km。

墓誌形態：蓋には文字無し。石に 39 行の契丹小字誌文。

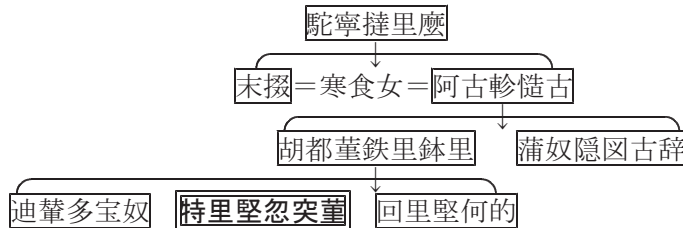
所蔵機関：巴林左旗契丹博物館。

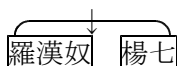
墓主：特里堅忽突董[特里堅は墓主の「字」。忽突董は墓主の「名」。『遼史』にその名のみ見える](遼興宗重熙十年 1041 ~ 遼道宗大安七年 1091)。享年 51 歳。

房族：拔里国舅夷離畢帳。

出典：『韓半島から眺めた契丹・女真』 pp.30-41。『新出契丹史料の研究』 pp.204-234。

系譜：





§ 16 『可汗横帳仲父房連寧詳穩墓誌』（遼道宗大安七年 1091 十月二日）

出土地：墓葬所在の山は、『大フリジ契丹国可汗横帳惕隱司仲父房国隱寧詳穩位誌銘』の出土地と同じ海棠山支脈薩本山に属し、遼代にはテルブ山といった。

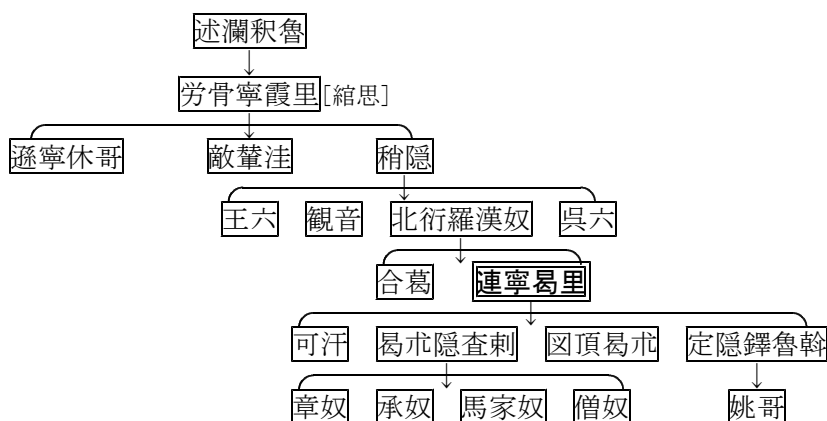
墓誌形態：蓋には文字無し。石に 39 行、蓋の裏に 9 行合計 48 行の契丹小字誌文。

墓主：連寧曷里〔連寧は墓主の「字」、曷里は墓主の「名」〕（遼聖宗統和二十八年 1010 ～遼道宗大安七年 1091）。享年 82 歳。

房族：仲父房。

出典：『韓半島から眺めた契丹・女真』 pp.84-85。『新出契丹史料の研究』 pp.156-157,169-171。

系譜：



§ 17 『大中央フリジ契丹国臨海軍節度使崇祿大夫檢校太尉同中書門下平章事上柱国漆水郡開国公食邑二千食實封二百耶律撒懶相公墓誌銘』（遼道宗大安八年 1092 八月七日）

出土地：内蒙古通遼市札魯特旗嘎亥凶鎮。

墓誌形態：蓋に 3 行の篆書漢字「南瞻部洲大遼國故迪烈王墓誌文」。石に 32 行、蓋の裏に 9 行合計 41 行の契丹小字誌文。

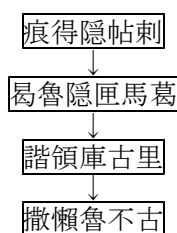
所蔵機関：北京遼金城垣博物館。

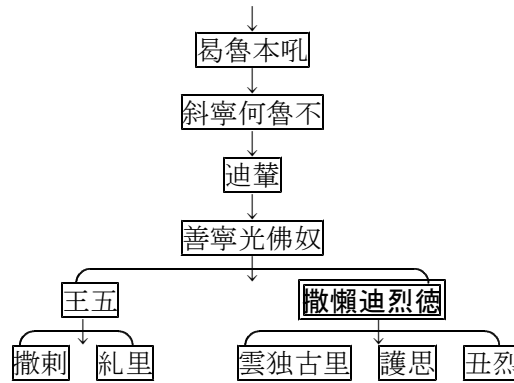
墓主：撒懶迪烈德〔撒懶は墓主の「字」、迪烈德は墓主の「名」。墓誌蓋の漢文・『遼史』の音訳ともにその名の語尾-d を省略する〕（遼聖宗太平六年 1026 ～遼道宗大安八年 1092）。享年 67 歳。『遼史』卷九十六に伝がある¹⁸⁾。

房族：六院夷離堇房。

出典：『契丹語言文字研究』 pp.243-263。『遼金史与契丹女真文』（東亜歴史文化研究会、2004 年） pp.39-49,69-85。『契丹文墓誌より見た遼史』 pp.124-142。『新出契丹史料の研究』 pp.155-156, 166-168。

系譜：





§ 18 『大中央フリジ契丹国可汗横帳仲父房耶律烏盧本太尉墓誌銘』（遼道宗大安十年 1094 十一月十五日）

出土地：遼寧省北票市小塔子郷蓮花山村。

墓誌形態：石に 27 行の契丹小字誌文。別石に漢字『大遼故果州防禦使耶律公墓誌銘』。両文字で書かれた内容は非対訳。

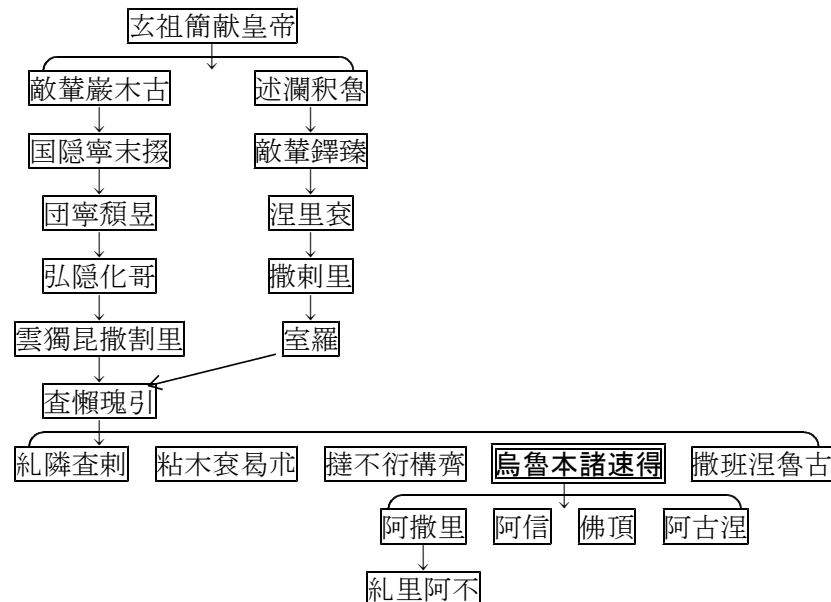
所蔵機関：遼寧省北票市博物館。

墓主：烏盧本諸速得[烏盧本は墓主の「字」。諸速得は墓主の「名」。その漢風名は「耶律智先」]（遼聖宗太平三年 1023 ～遼道宗大安十年 1094）。享年 72 歳。

房族：孟父房→仲父房。

出典：『契丹語言文字研究』 pp.263-284。『契丹文墓誌より見た遼史』 pp.160-166。『新出契丹史料の研究』 pp.156-157, 169-171。

系譜：



§ 19 『外戚国舅小翁帳奪里懶太山將軍妻永清郡主二人の墓誌』（遼道宗寿昌元年 1095 六月二十六日）

出土地：遼寧省阜新蒙古族自治県平安地鎮阿漢土村宋家梁屯から北に 1km 離れた山の斜面。同県

八家子郷果樹村近くの烏蘭木岡山東南の斜面から出土した漢字『故寧遠軍節度使蕭公墓誌銘』（遼聖宗太平九年 1029）の墓主蕭僅（陳哥）は、奪里懶太山と同じ拔里国舅小翁帳に属するが出自が異なる。両墓地の直線距離は約 30km 以上離れている。

墓誌形態：石碑の表に 29 行の漢字「大遼永清公主墓誌銘」。裏に 30 行、左側に 2 行合計 32 行の契丹小字誌文。

所蔵機関：阜新蒙古族自治县博物館。

墓主a：奪里懶太山[奪里懶は墓主の「字」。太山は墓主の「名」。その漢風名は「蕭彦弼」]（遼聖宗太平九年 1029～遼道宗大安三年 1087）。享年 59 歳。

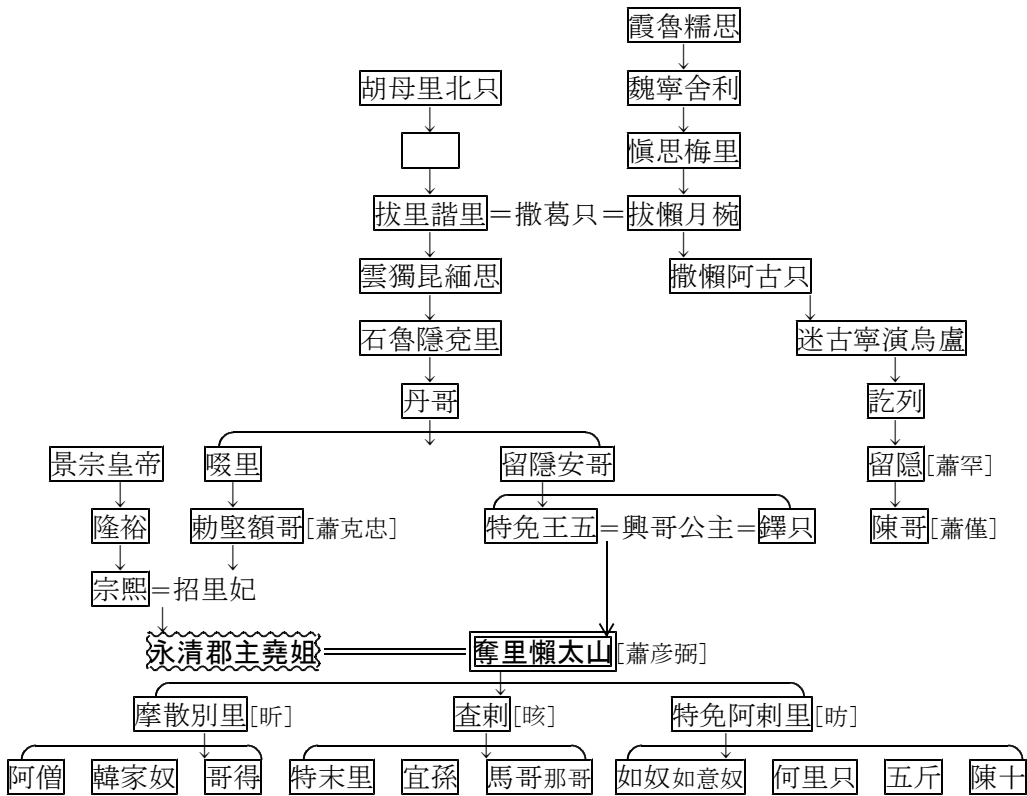
房族a：拔里国舅小翁帳。

墓主b：永清郡主堯姐[堯姐は墓誌の名] (?～遼道宗壽昌元年 1095)。

房族b：景宗皇帝系。

出典：『韓半島から眺めた契丹・女真』 pp.70-82。『新出契丹史料の研究』 pp.239-241。

系譜：



§ 20 『大フリジ契丹国可汗横帳惕隱司仲父房国隱寧詳穩位誌銘』（遼道宗壽昌五年 1099 四月二十八日）

出土地：遼寧省阜新蒙古族自治县大板鎮腰衙門村から北に 3km 離れた平頂山の南斜面。平頂山は、海棠山支脈の薩本山に属し、遼代にはテルブ山といった。同じ墓域から、漢字『大契丹國故晉国夫人墓誌銘』（遼興宗重熙七年 1038）が出土した。墓主の夫は、遼寧休哥の長子高八（耶律元）である。

墓誌形態：蓋には文字無し。石に 24 行、蓋の裏に 24 行合計 48 行の契丹小字誌文。

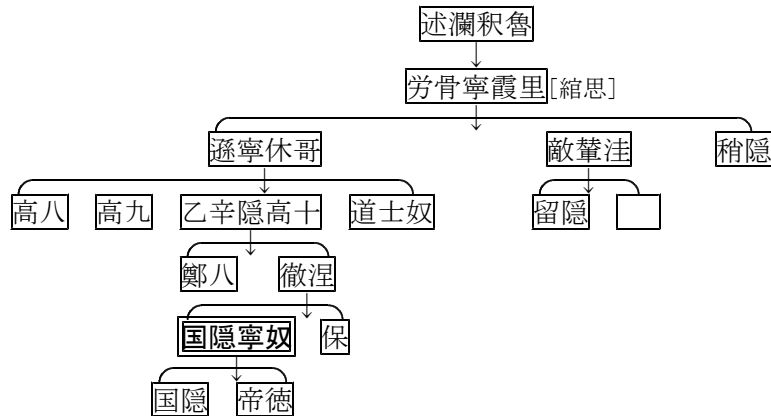
所蔵機関：阜新蒙古族自治县博物館。

墓主：国隠寧奴[国隠寧は墓主の「字」。奴は墓主の「名」。『遼史』に「耶律奴」と称する]（遼興宗重熙十年 1041～遼道宗寿昌四年 1098）。享年 58 歳（墓誌では「59 歳」とされる）。その妻意辛は『遼史』卷一百七に伝がある¹⁹⁾。

房族：仲父房。

出典：『契丹語言文字研究』 pp.239-242。『契丹文墓誌より見た遼史』 pp.172-178。『新出契丹史料の研究』 pp.156-157, 169-171。

系譜：



§ 21 『六院裏古直舍利房隗也里將軍位誌』（遼道宗寿昌六年 1100 四月二十四日）

出土地：内蒙古扎魯特旗烏日根塔拉農場一分場から北に約 4km 離れた西山の斜面。この山が属する山脈は、遼代にはナイハリン連峰といった。同じ墓域から出土した 2 件の漢文墓誌『故聖宗皇帝淑儀贈寂善大師墓誌銘』（遼道宗清寧九年 1063）と『大遼忠亮佐國功臣儀同三司守司徒兼侍中判上京留守臨潢尹事上柱國混同郡王耶律宗願墓誌銘』（遼道宗咸雍八年 1072）の墓主は、それぞれ隗也里將軍の祖母と父である。

墓誌形態：蓋に無文字。石に 32 行の契丹小字誌文。

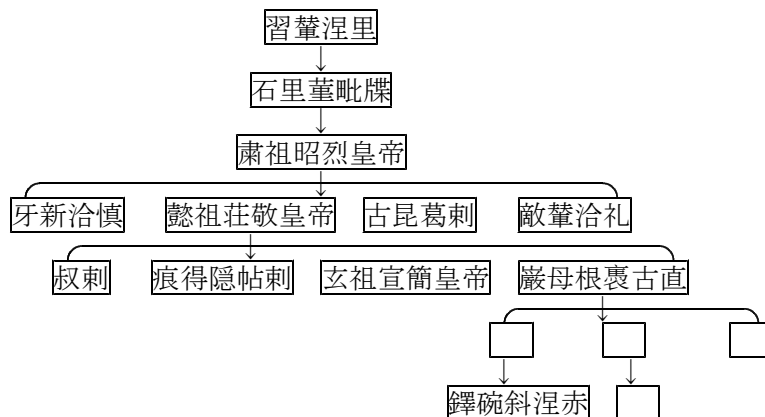
所蔵機関：扎魯特旗文物管理所。

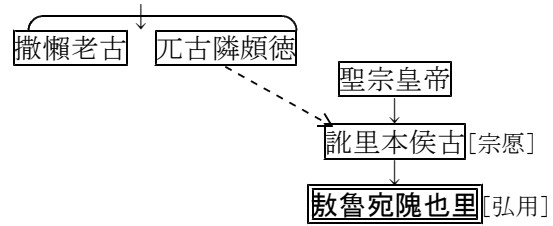
墓主：敖魯宛隗也里[敖魯宛は墓主の「字」。隗也里は墓主の「名」。その漢風名は「耶律弘用」]（遼興宗重熙二十三年 1054～遼道宗大安二年 1086）。享年 33 歳。

房族：聖宗皇帝系→六院部舍利房。

出典：『契丹語言文字研究』 pp.297-301。『新出契丹史料の研究』 p.156, pp.158-165。

系譜：





§ 22 『撒懶室魯太師位誌碑』(遼道宗壽昌六年 1100 四月)

出土地：内蒙古扎魯特旗伊和背郷水泉溝。

墓誌形態：石碑の表の額に漢字「望墳碑記」、碑に漢字「拔濟苦難陀羅尼經」一卷。石碑の裏の額に 2 行の契丹小字「撒懶室魯太師の位誌碑」、碑に 13 行の契丹小字誌文。

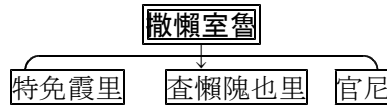
所蔵機関：遼中京博物館。

墓主：撒懶室魯[撒懶は墓主の「字」。室魯は墓主の「名」](?～遼道宗壽昌六年 1100)。

房族：六院郎君房(?)

出典：『契丹小字墓誌全釈』。

系譜：



§ 23 『大中央フリジ契丹仁聖大孝文皇帝哀冊文』(遼天祚帝乾統元年 1101)

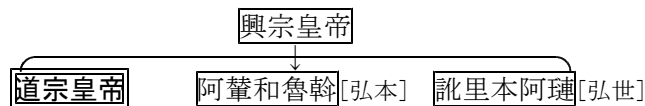
出土地：内蒙古巴林右旗索博日嘎蘇木瓦林茫哈の西陵(永福陵)。

哀冊形態：蓋に 6 行の篆書契丹小字「大中央フリジ契丹の仁聖大孝文皇帝の哀冊文」。石に 37 行の契丹小字誌文。同墓から出土した漢文哀冊の蓋に篆書漢字「仁聖大孝文皇帝哀冊」、石に 36 行の楷書漢字誌文。両文字で書かれた内容は非対訳。

所蔵機関：遼寧省博物館。

墓主：道宗皇帝諱涅鄰查刺[洪基](遼興宗重熙元年 1032～遼道宗壽昌七年 1101)。享年 70 歳。

系譜：



§ 24 『宣懿稱斡麼哀冊文』(遼天祚帝乾統元年 1101)

出土地：内蒙古巴林右旗索博日嘎蘇木瓦林茫哈の西陵(永福陵)。

哀冊形態：蓋に 4 行の篆書契丹小字「宣懿稱斡麼の哀冊文」。石に 30 行の契丹小字誌文。同墓から出土した漢文哀冊の蓋に篆書漢字「宣懿皇后哀冊」、石に 34 行の楷書漢字誌文。両文字で書かれた内容は非対訳。

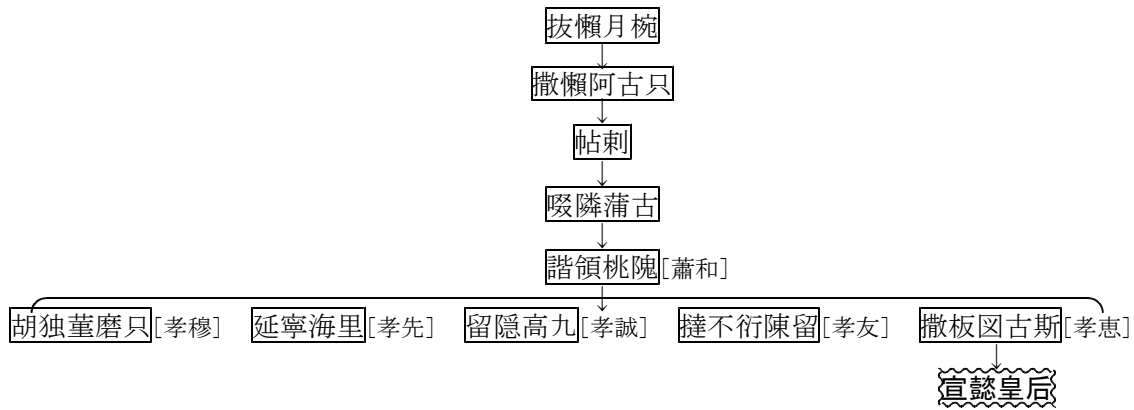
所蔵機関：遼寧省博物館。

墓主：道宗宣懿皇后諱觀音[觀音女](?～遼道宗大康元年 1075)。

房族：拔里国舅小翁帳。

出典：『新出契丹史料の研究』 p.203。

系譜：



§ 25 『惕隱司秦王帳空寧敵烈太保墓誌』（遼天祚帝乾統元年 1101 二月二十八日）

出土地：内蒙古巴林左旗白音勿拉蘇木白音罕山にある韓匡嗣家族の墓域。白音罕山は、遼代には屈烈（渠劣）山といった。

墓誌形態：石に 34 行の契丹小字誌文。

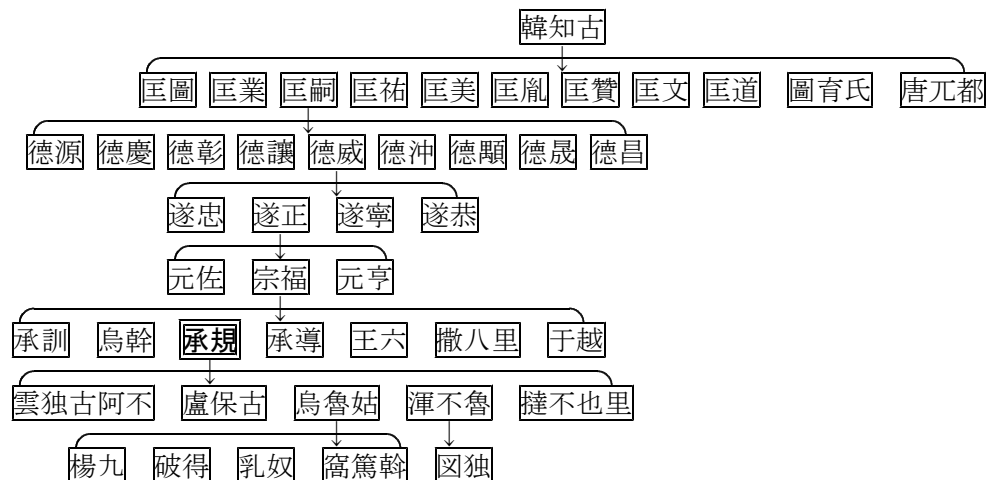
所蔵機関：遼上京博物館。

墓主：空寧敵烈[空寧は墓主の「字」。敵烈は墓主の「名」。もとの漢風名は「承規」（承窺）]（遼興宗重熙三年 1034～遼道宗寿昌六年 1100）。享年 67 歳。

房族：季父房秦王帳。

出典：『契丹語言文字研究』 pp.284-294。『愛新覺羅烏拉熙春女真契丹学研究』 p.234, pp.247-267。

系譜：



§ 26 『大中央フリジ契丹国六院諧領于越帳孟父房窩篤宛副署位誌』（遼天祚帝乾統二年 1102 十一月二十五日）

出土地：内蒙古阿魯科爾沁旗罕廟蘇木の古日班呼舒嘎查新村から西北に 1.5km 離れた朝克凶山東麓（耶律祺墓と同じ墓域に属する。窩篤宛と耶律祺は従兄弟）。耶律羽之家族の墓域から東北に約 2km 離れている。

墓誌形態：蓋の表には文字無し。裏に 27 行、石に 24 行合計 51 行の契丹小字誌文。

所蔵機関：内蒙古文物考古研究所。

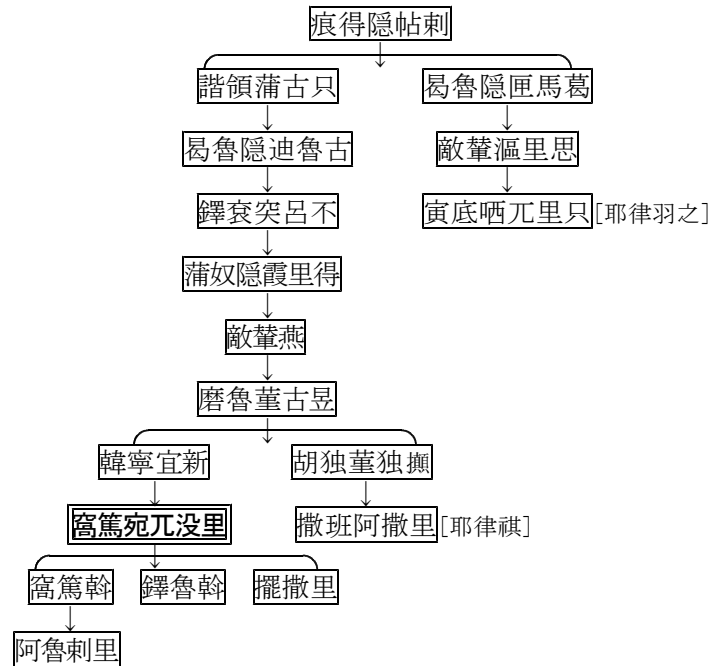
墓主：窩篤宛兀没里[窩篤宛は墓主の「字」。兀没里は墓主の「名」。その漢風名は「耶律運」]（遼興宗景福

元年 1031～遼道宗大康三年 1077)。享年 47 歳。『遼史』卷九十二に伝がある²⁰⁾。

房族：六院夷離堇房。

出典：『契丹文墓誌より見た遼史』 pp.115-123。『新出契丹史料の研究』 pp.155, pp.166-168。

系譜：



§ 27 『惕隱司孟父房蜀国王帳耶律夷里衍太保位誌』（遼天祚帝乾統二年 1102 十二月十一日）

出土地：内蒙古巴林左旗。

墓誌形態：蓋には文字無し。石に 31 行の契丹小字誌文。

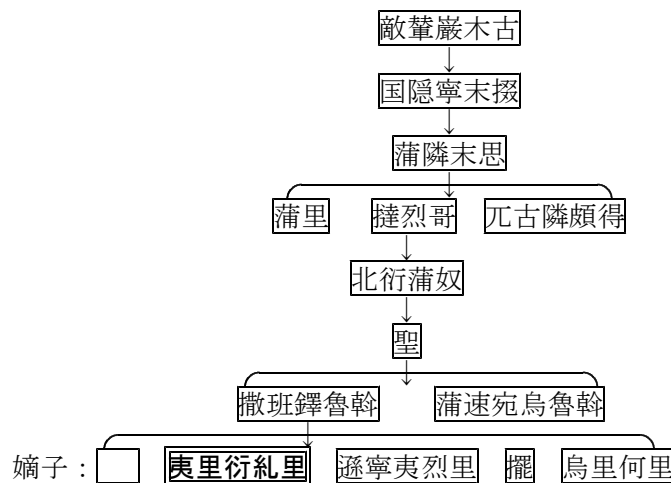
所蔵機関：遼上京博物館。

墓主：夷里衍紉里[夷里衍は墓主の「字」。「紉里」は墓主の「名」]（遼道宗清寧七年 1061～遼天祚帝乾統二年 1102）。享年 42 歳。

房族：孟父房。

出典：『契丹文墓誌より見た遼史』 pp.155-158。『新出契丹史料の研究』 pp.156-157, 168-169。

系譜：



庶子：□ □乙辛

§ 28 『可汗横帳季父房四字功臣洛京留守開府儀同三司兼中書令于越尚父混同郡王追封許王乙辛隱大王墓誌碑銘』（遼天祚帝乾統五年 1105 二月二十一日）

出土地：遼寧省阜新蒙古族自治縣臥鳳溝鄉白臺溝村の流清溝。

墓誌形態：蓋の中央に 2 行の楷書漢字「遼國許王墓誌」、右に 1 行の楷書漢字「掩閉日甘露降」、左に 1 行の契丹小字対訳。石の表に 30 行、左側面に 4 行、裏に 30 行合計 64 行の契丹小字誌文。右側面に 5 行の漢字誌文。

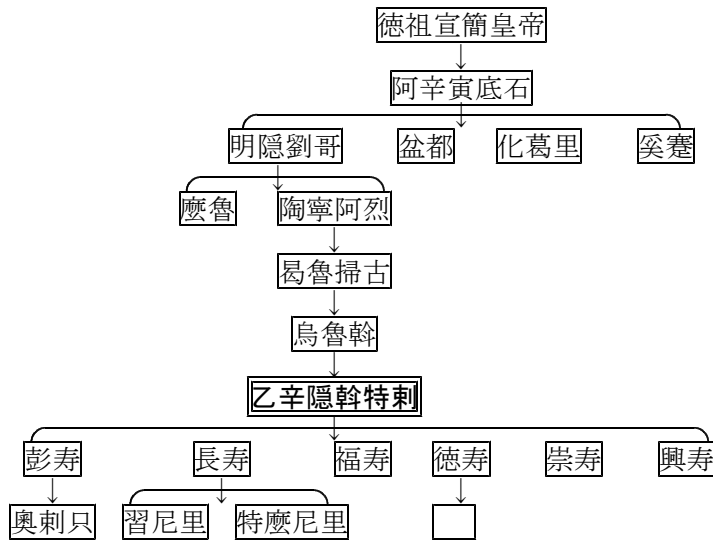
所蔵機関：阜新市博物館。

墓主：乙辛隱幹特刺[乙辛隱は墓主の「字」。幹特刺は墓主の「名」]（遼興宗重熙四年 1035 ～遼天祚帝乾統四年 1104）。享年 70 歳。『遼史』卷九十七に伝がある²¹⁾。

房族：季父房。

出典：『契丹文墓誌より見た遼史』 pp.193-198。『新出契丹史料の研究』 pp.157-158, 171-172。

系譜：



§ 29 『惕隱司孟父房白隱太傅位誌碑銘』（遼天祚帝乾統五年 1105 二月二十二日）

出土地：内蒙古巴林左旗。

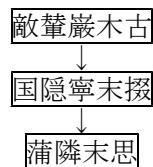
墓誌形態：蓋の中央に 1 行の契丹小字「惕隱司孟父房白隱太傅の位誌碑の銘」。右に 1 行の契丹小字「乾統五年西二月二十二日」（乾統五年の干支は乙酉）。石に 25 行の契丹小字誌文。

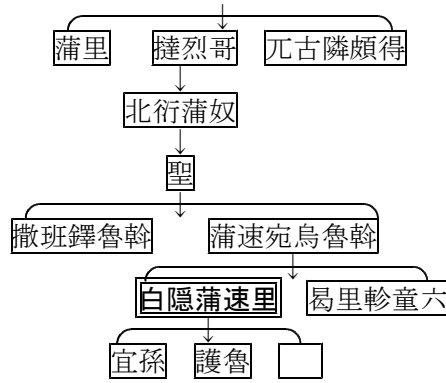
墓主：白隱蒲速里[白隱は墓主の「字」。蒲速里は墓主の「名」。その漢風名は「耶律思齊」]（遼道宗清寧四年 1058 ～遼天祚帝乾統四年 1104）。享年 47 歳。

房族：孟父房。

出典：『韓半島から眺めた契丹・女真』 pp.41-48, p.65。『新出契丹史料の研究』 pp.156-157, 168-169。

系譜：





§ 30 『外戚国舅小翁帳六字功臣梁国王位誌銘』（遼天祚帝乾統七年 1107 四月十四日）

出土地：遼寧省阜新蒙古族自治县大巴鎮車新村北の谷間（元関山種畜場二道溝鹿場）。県政府所在地から東北に 20km 離れている。谷間には東南の王墳溝と西北の馬掌洼という二箇所の墓地があり、契丹小字『梁国王位誌銘』と漢字『梁國太妃墓誌銘』（墓主は梁国王の妻）は馬掌洼墓地から出土した。同じ墓域から、漢字『晋國王妃秦國太妃耶律氏墓誌銘』（墓主は諧領桃隗[蕭和]の妻）も出土した。そこから約 4km 離れた王墳溝墓地から、漢字『蕭德温墓誌』・『蕭德恭墓誌』・『蕭德恭妻墓誌』・『蕭知行墓誌銘』が出土した。蕭德温と蕭德恭の兄弟は、胡独堇磨只（蕭孝穆）の長子阿里懶阿刺の長子と第三子である。蕭知行は留隱高九（蕭孝誠）の第五子烏盧本除鉢である。墓誌形態：蓋に 3 行の篆書漢字「故梁國太妃墓誌銘」。石の表に 25 行の漢字『梁國太妃墓誌銘』。裏に 29 行の契丹小字『外戚国舅小翁帳六字功臣梁国王位誌銘』。

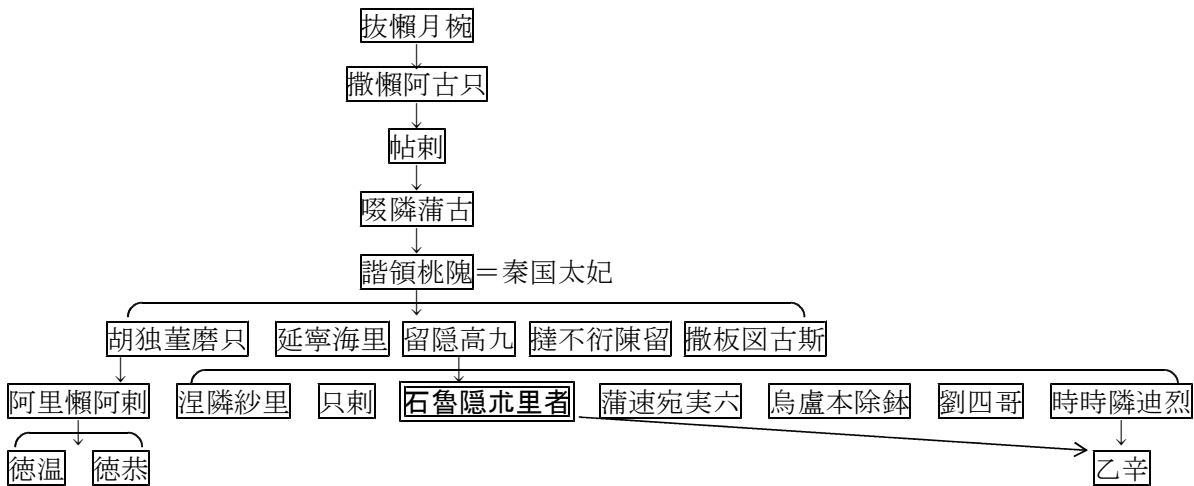
所蔵機関：遼寧省文物考古研究所。

墓主a：梁国王・石魯隱朮里者[石魯隱は墓主の「字」。朮里者は墓主の「名」。その漢風名は「蕭知微」]（遼聖宗開泰八年 1019～遼道宗咸雍五年 1069）。享年 51 歳。『遼史』卷九十一に伝がある²²⁾。

房族a：拔里国舅小翁帳。

出典：『愛新覺羅烏拉熙春女真契丹学研究』 pp.267-277。『新出契丹史料の研究』 pp.238-241。

系譜a：



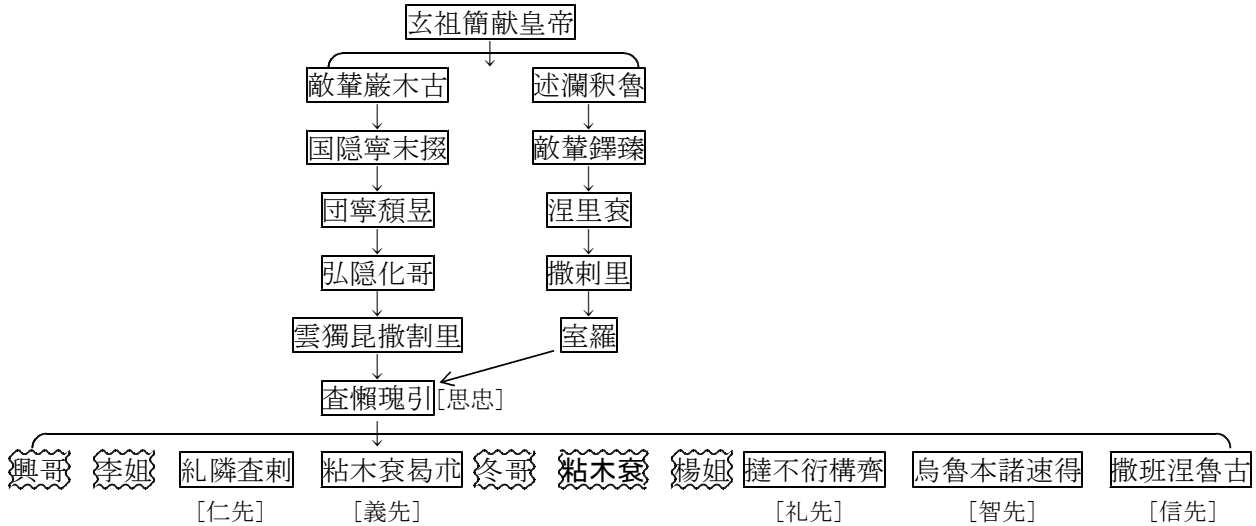
墓主b：梁国太妃・粘木袞（遼聖宗開泰八年 1019～遼天祚帝乾統七年 1107）。享年 89 歳。

房族b：孟父房→仲父房。

粘木袞の父查懶瑰引が孟父房から仲父房へ移籍するに先だち、仲父房の室羅が嗣無くして死んだので、孟父房の雲獨昆撒割里並びにその子查懶瑰引に室羅の帳を承けさせた経緯があったが、漢文墓誌はそうした経緯を明示せず查懶瑰引の祖父を室羅と誤記している。

出典：『契丹文墓誌より見た遼史』 pp.160-166。『新出契丹史料の研究』 pp.156-157, 169-171。

系譜b：



§ 31 『涿州刺史墓誌』（遼天祚帝乾統八年 1108 十月八日）

出土地：内蒙古巴林左旗三山郷南溝村。

墓誌形態：石（残欠）に 26 行の契丹小字誌文。

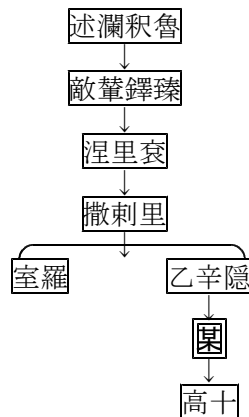
所蔵機関：遼上京博物館。

墓主：某（遼興宗重熙十年 1041 ～遼天祚帝乾統七年 1107）。享年 67 歳。

房族：仲父房。

出典：『契丹語言文字研究』 pp.233-235。

系譜：



§ 32 『大耶律故義和仁壽皇太叔祖哀冊』（遼天祚帝乾統十年 1110 十一月八日）

出土地：内蒙古巴林右旗索博日嘎蘇木瓦林茫哈の東陵（永興陵）の陪葬墓。

墓誌形態：蓋に 3 行の篆書契丹小字「故太叔祖の哀冊」。石に 25 行の契丹小字誌文。同墓から出土

した漢文哀冊の蓋に2行の篆書漢字「太叔祖哀冊文」、石に26行の漢字誌文。両文字で書かれた内容は非対訳。

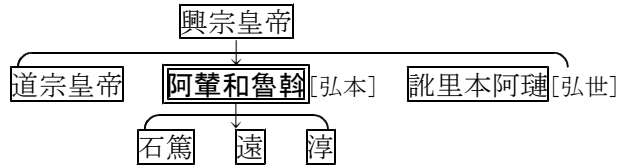
所蔵機関：巴林右旗博物館。

墓主：阿輦和魯幹[阿輦は墓主の「字」。和魯幹は墓主の「名」。その漢風名は「弘本」]（遼興宗重熙十年1041～遼天祚帝乾統十年1110）。享年70歳。

出典：『契丹語言文字研究』pp.306-310。

房族：興宗皇帝系。

系譜：



§ 33 『大耶律故宋魏国妃墓誌銘』（遼天祚帝乾統十年1110十一月八日）

出土地：内モンゴバ林右旗索博日嘎蘇木瓦林茫哈の東陵（永興陵）陪葬墓。

墓誌形態：蓋に4行の篆書契丹小字「故宋魏国妃の墓誌銘」。石に24行の契丹小字誌文。同墓から出土した漢文墓誌の蓋に2行で「宋魏國妃誌文」、石に26行の漢字誌文。両文字で書かれた内容は非対訳。

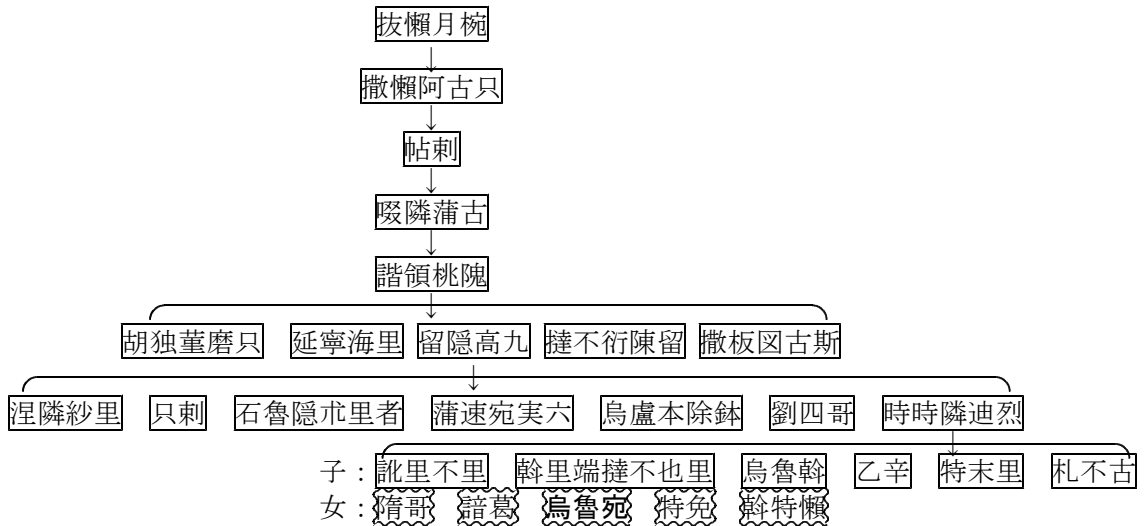
所蔵機関：巴林右旗博物館。

墓主：烏魯宛[阿輦和魯幹の妻]（清寧二年1056～大康六年1080）。享年25歳。

房族：拔里国舅小翁帳。

出典：『契丹語言文字研究』pp.301-306。『愛新覺羅烏拉熙春女真契丹学研究』pp.267-277。『新出契丹史料の研究』pp.238-241。

系譜：



§ 34 『大中央フリジ契丹国惕隱司季父房秦王帳兼中書令開国公王寧墓誌』（遼道宗大康二年1076以後）

出土地：内モンゴバ林左旗白音勿拉蘇木白音罕山にある韓匡嗣家族の墓域。

墓誌形態：石に 26 行の契丹小字誌文。続きの部分は蓋の裏に刻されたはずだが、蓋は行方不明。

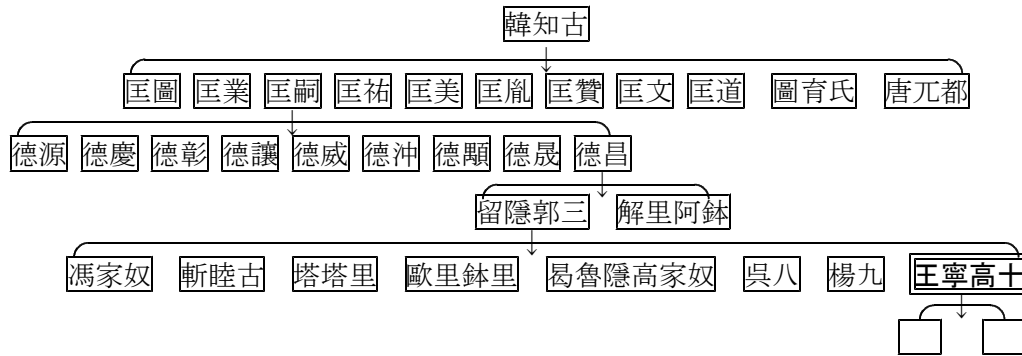
所蔵機関：遼上京博物館。

墓主：王寧高十[王寧は墓主の「字」。高十は墓主の「名」。もとの漢風名は「元佐」]（遼聖宗開泰四年 1015 ~?)

房族：季父房秦王帳。

出典：『契丹語言文字研究』 pp.284-294。『愛新覺羅烏拉熙春女真契丹学研究』 pp.247-267。

系譜：



§ 35 『横帳仲父房某墓誌』

出土地：遼寧省阜新蒙古族自治県大板鎮にある海棠山支脈である薩本山東斜面の台地。その東南は普安寺まで 500m 離れている。その東北は朝陽寺（遼の岫雲寺）まで 2.5km 離れている。墓の所在する山は、『可汗横帳仲父房連寧詳穩墓誌』『大フリジ契丹国可汗横帳惕隱司仲父房国隱寧詳穩位誌銘』と同じく、遼代にはテルブ山といった。

墓誌形態：石（残欠）に 13 行の契丹小字誌文。裏に後世に浮き彫りした佛像。

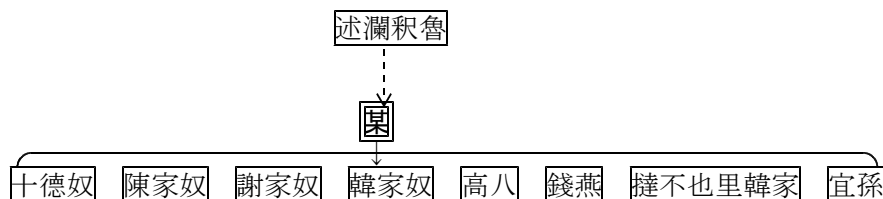
所蔵機関：阜新蒙古族自治県博物館。

墓主：某。

房族：仲父房。

出典：『契丹小字墓誌全釈』。

系譜：



§ 36 『乙辛隱少傅夫人墓誌』（遼代）

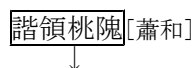
出土地：内蒙古巴林左旗碧流台鎮琥珀溝村。

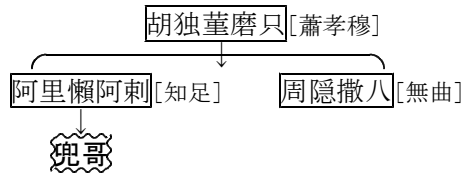
所蔵機関：遼上京博物館。

墓主：兜哥[乙辛隱燕五（承訓）の妻]。

房族：拔里国舅小翁帳。

系譜：



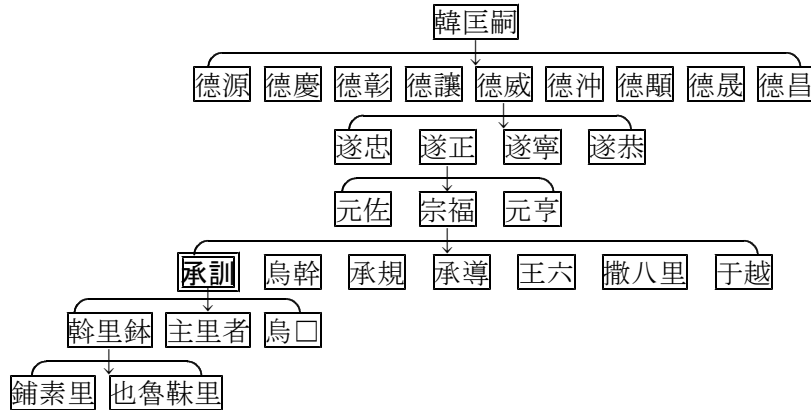


墓主の夫：乙辛隱燕五[乙辛隱は「字」。燕五は「名」。もとの漢風名は「承訓」]。

房族：季父房秦王帳。

出典：『契丹語言文字研究』 pp.284-294。『愛新覺羅烏拉熙春女真契丹学研究』 p.234, pp.247-267。

系譜：



§ 37 『外戚国舅帳耶魯宛迪魯古副使位誌碑銘』（遼天祚帝天慶四年 1114 十月二十九日）

出土地：胡都董鉄里鉢里家族の墓域。そこから蒲奴隱図古辞墓までの直線距離は約 10km。

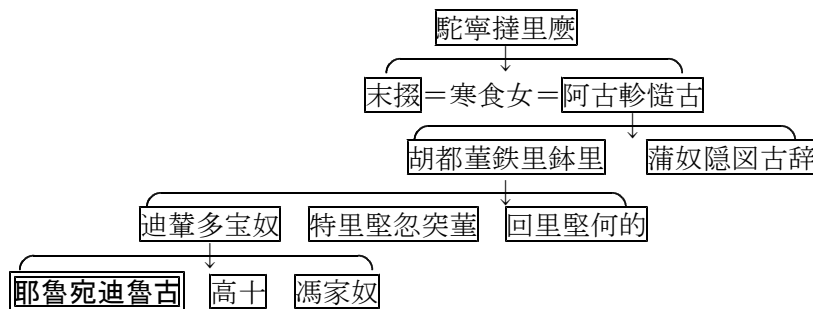
墓誌形態：蓋の裏に 25 行、石に 26 行の契丹小字誌文。

墓主：耶魯宛迪魯古[耶魯宛は墓主の「字」。迪魯古は墓主の「名」]（遼道宗清寧八年 1062 ～遼天祚帝天慶四年 1114）。享年 53 歳。

房族：拔里国舅夷離畢帳。

出典：『韓半島から眺めた契丹・女真』 pp.30-41。『新出契丹史料の研究』 pp.204-234。

系譜：



§ 38 『大耶律初魯得迪魯董將軍妻撻体娘子墓誌銘』（遼天祚帝天慶五年 1115 四月十日）

出土地：内蒙古翁牛特旗山嘴子郷烏蘭阪毛布溝（蕭孝資墓と同じ墓域）。山嘴子郷から朝格温都蘇木賽沁塔拉嘎查包莫図（蕭孝恭墓の所在地）までの直線距離は約 15km。

墓誌形態：蓋に 2 行の篆書漢字「故耶律氏銘石」。石に 25 行の契丹小字誌文。

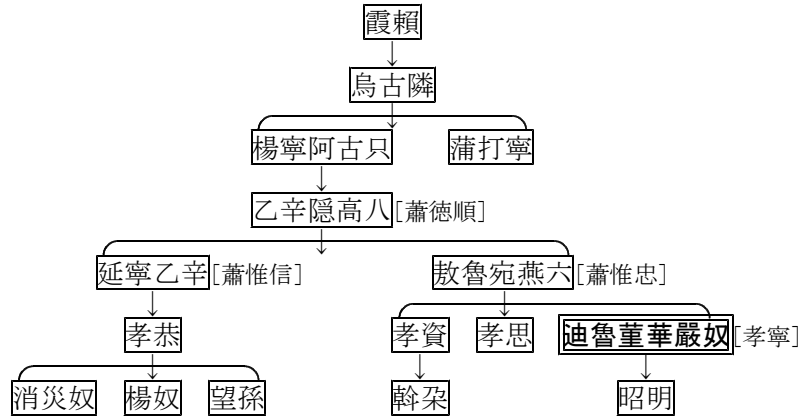
所蔵機関：赤峰市博物館。

墓主の夫：迪魯董華嚴奴[迪魯董は墓主の「字」。華嚴奴は墓主の「名」。その漢風名は「孝寧」]（遼道宗清寧六年 1060～?）。

房族：初魯得部。

出典：『愛新覺羅烏拉熙春女真契丹学研究』 pp.221-231。

系譜：

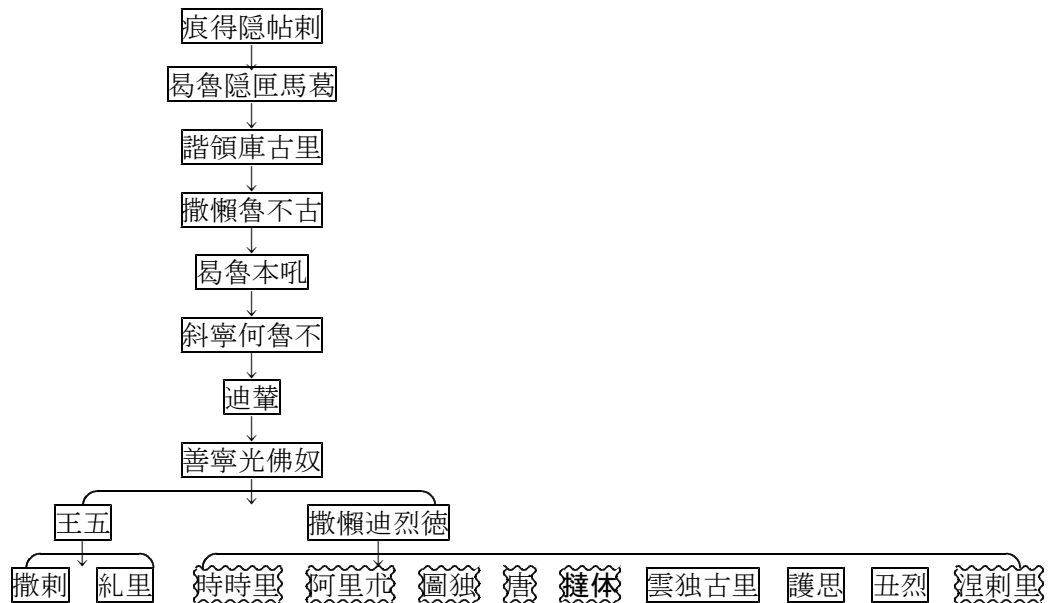


墓主：撻体（遼道宗大康七年 1081～遼天祚帝天慶五年 1115）。享年 35 歳。

房族：六院夷離董房。

出典：『契丹語言文字研究』 pp.243-263。『遼金史与契丹女真文』 pp.39-49,69-85。『契丹文墓誌より見た遼史』 pp.124-142。『新出契丹史料の研究』 pp.155-156, 166-168。

系譜：



§ 39 『大金皇弟都統經略郎君行記』（金太宗天会十二年 1134 十一月十四日）

発見地：①陝西省乾県唐乾陵の武則天「無字碑」。②乾県乾陵郷司馬道村。

石碑形態：額に 3 行の篆書漢字「大金皇弟都統經略郎君行記」。石の右半分に 5 行の契丹小字。左

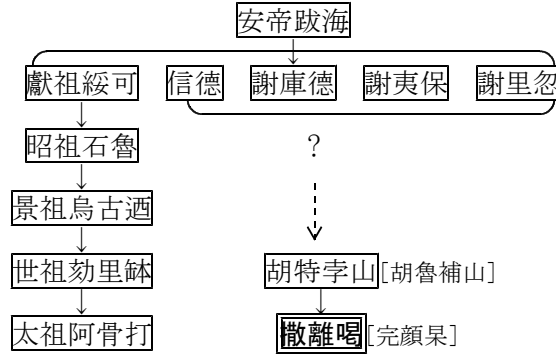
半分に 6 行の楷書漢字。漢文は契丹文をもとに一部対訳。

所蔵機関：乾陵博物館。

都統經略郎君：撒離喝[完顏杲] (?～金海陵王天德二年 1150)。『金史』 卷八十四に伝がある²³⁾。

出典：『契丹文墓誌より見た遼史』 pp.322-325。

系譜：



§ 40 『国舅小翁帳越国王烏里衍墓誌』 (金海陵王天德二年 1150 九月十九日)

出土地：河北省興隆県閻杖子郷梓木林子村の東にある畑。

墓誌形態：蓋に 3 行の契丹小字「国舅小翁帳越国王烏里衍の墓誌」。石に 50 行の契丹小字誌文。

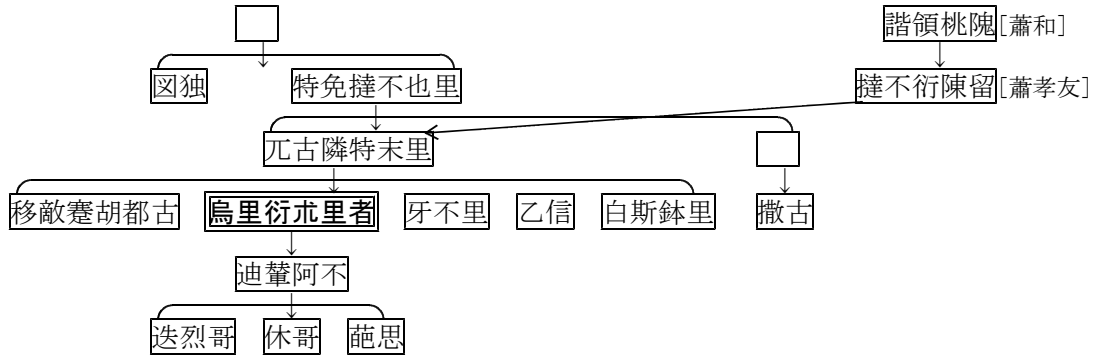
所蔵機関：河北省博物館。

墓主：烏里衍朮里者[烏里衍は墓主の「字」。朮里者は墓主の「名」。その漢風名は「蕭仲恭」] (遼道宗大安六年 1090 ～金海陵王天德二年 1150)。享年 61 歳。『金史』 卷八十二に仲恭及びその子拱 (迪輦阿不)・その弟仲宣 (牙不里) の伝がある²⁴⁾。

房族：六院蔑古乃→拔里国舅小翁帳。

出典：『愛新覺羅烏拉熙春女真契丹学研究』 pp.113-121。『新出契丹史料の研究』 pp.241-242。

系譜：



§ 41 『大金習輦鎮国上將軍墓誌銘』 (金世宗大定十一年 1171)

出土地：内蒙古敖漢旗新地郷老虎溝村の西北約 1.5km 離れた北山の南斜面。

墓誌形態：蓋には文字無し。石に 51 行の契丹小字誌文。

所蔵機関：敖漢旗博物館。

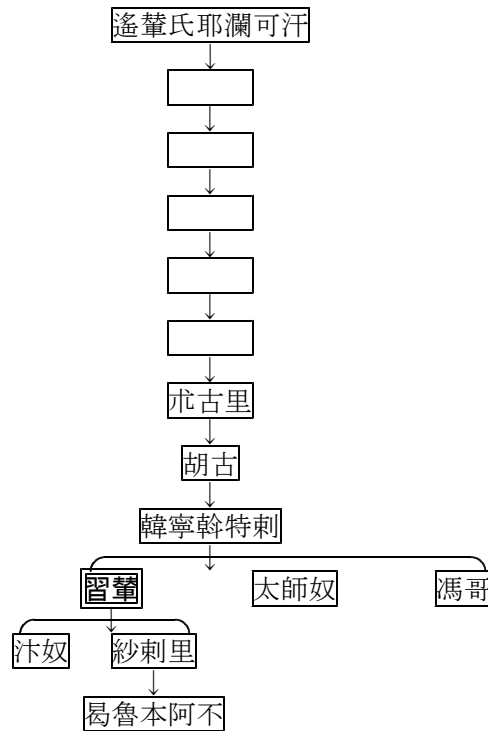
墓主：習輦[墓主の「字」] (遼道宗大康五年 1079 ～金熙宗皇統二年 1142)。享年 64 歳。

房族：孟父房耶瀾可汗帳。

出典：『契丹語言文字研究』 pp.230-233。『愛新覺羅烏拉熙春女真契丹学研究』 pp.121-139。『新出契

丹史料の研究』 pp.119-123。

系譜：



§ 42 『大金故頭武將軍上師居士蘭陵県開国男騎都尉食邑三百拔里公墓誌』(金世宗大定十五年 1175 十一月二十六日)

出土地：遼寧省阜新蒙古族自治县平安地郷阿漢土村宋家梁屯から北に 1km 離れた山の斜面（奪里懶太山墓と同じ墓域）。

墓誌形態：蓋に 3 行の契丹小字「故頭武將軍上師居士拔里公の墓誌」。石に 33 行の契丹小字誌文。

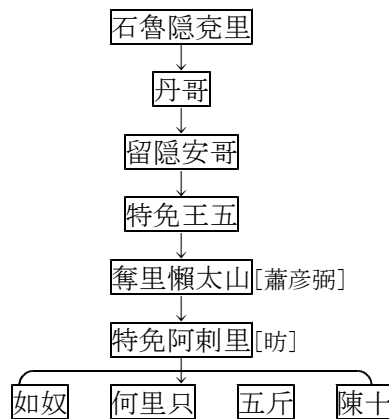
所蔵機関：阜新蒙古族自治县博物館。

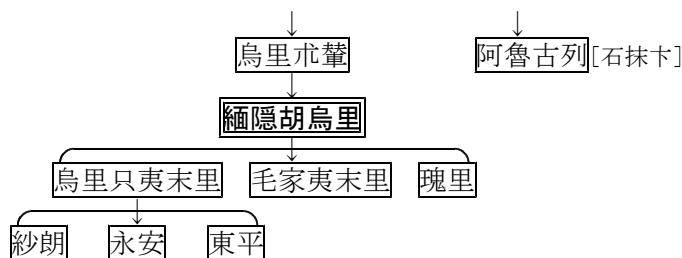
墓主：緬隱胡烏里[緬隱は墓主の「字」。胡烏里は墓主の「名」]（金太宗天会八年 1130 ～金世宗大定十五年 1175）。享年 46 歳。五斤の子阿魯古列は『金史』卷九十一に伝がある²⁵⁾。

房族：拔里国舅小翁帳。

出典：『新出契丹史料の研究』 pp.239-241。

系譜：





§ 43 『顧冊村墓誌』（金代）

出土地：北京市房山区顧冊村。

出典：「北京地区初現契丹文字石刻」。

http://article.netor.com/article/memtext_92531.html

[付録] 契丹大字墓誌に関連する漢文墓誌

§ 1 『上國都監太傅墓誌銘』（契丹大字『痕得隱太傅墓誌』の裏に刻されている）

- 1 上國都監太傅墓誌銘并序
- 2 伏聞天之高與地之厚尚有缺而陷之山之峻與海之深口有傾而竭矣矧未
- 3 天地山海猶若如斯壽命人生豈無脩短所悲者 聖主倚賴之臣腹心之
- 4 任遽辭 昭代實痛哉於戲 太傅姓耶律諱懃德所屬甲戌年十二
- 5 月二十六日生幼而有礼長乃死爭忠於國孝於家事君能盡其心理民各得
- 6 其所三十官至司徒充北大王副使三十五補充燕京南面副都統使改授西
- 7 南路兵馬都監時己亥歲河東歸順北朝太傅奉 宣命充都監統十万衆
- 8 与涅拽侍中同救援河東於忻口唐林大獲勝捷四十六於己未歲二月内又
- 9 奉 聖旨統押 皇帝旗鼓去當年五月内南軍侵軼燕京太傅尋統領
- 10 全師直底燕京南故安縣交戰煞廻賊軍柴家累宣恩命欲加恩寵太傅軍民
- 11 咸悅仕卒皆欽曾無阿讒之嫌爰有恩威之譽 祖諱涅烈三任北平王芳
- 12 名華國茂業榮家緝德累功善終令始 伯諱喞衰初將弱冠任北平王既
- 13 及壯齡就加于越功名遠播勳業彌高勞效尋以剋成忽曰疾而薨逝
- 14 皇考諱朮保里夙統兵權早分憂口東收新羅巨猾西平達涅狡徒而又妙榮
- 15 開疆良圖霸国兄弟著六龍之号子孫揚三公之名世世侯王門門台輔享年
- 16 二十五所婚夫人北宰相處子即皇妣也太傅皇考之長子也妻二人
- 17 太傅開代英姿名王貴種負贊国匡邦之策懷靖邊定遠之謀翊輔 皇家
- 18 恢弘 帝業鎮定望風而喪膽并汾仰德以依投監軍七年副帥十載備見勤
- 19 王之跡首推捧日之心光嗣門庭早著成家之業輝華世代爰推繼祖之風績
- 20 效崇高紀功難盡然而太傅堂兄 何盧保大王於丁未歲扈從 嗣聖皇帝
- 21 大駕於丙午歲正月一日大唐天子与百寮蹈舞呼万歲朝見 嗣聖皇帝
- 22 是丙午歲十二月十八日收下中国丁未歲正月一日坐朝得神器与金箱玉
- 23 印兼明堂俱將來入 上国大王尋加采訪使善始令終此時 太傅為北大
- 24 王副使有輔佐功勳 太傅堂兄東国 宰相率刺押奚王等十万衆取
- 25 西南往河陽路直入洛京鎮撫關西廻軍到国遂加南面都統使燕京留守封
- 26 燕王此時 太傅充副都統使亦有贊佐功勳 太傅即於己未

27 歲五月內寢疾至十月一日癸酉薨於雲州天成軍享年四十六尋扶護入
 28 国至庚申歲五月二十八日丙寅葬於內恩軍北高神山 礼也凡用葬礼
 29 並依国法威儀特刊貞珉用編懿績其銘曰 五靈孕質 三山詠粹
 30 崇勳茂績 国華人瑞 神伝妙算 天生聰智 力殫為主 遐分憂寄
 31 名王貴種 真宰胤嗣 監軍无點 副帥有位 疾惡稱首 舉賢遂意
 32 德及將校 恩霑寮吏 稟氣公直 處世英特 理家盡孝 報君竭力
 33 臨民慈惠 權兵威德 鬱鬱佳城 神山之側 應曆十年五月二十八日

§ 2 『耶律延寧墓誌』(契丹大字誌文の下部と左縁に刻されている)

1 大契丹國故保義奉節功臣羽厥里節度使
 2 特進檢校太尉同政事門下平章事上柱國漆
 3 水縣開國伯食邑七百戸耶律 墓誌銘并序
 4 公諱延寧其先祖已來是皇親曾祖諱泉
 5 離骨祖諱肯午不孝諱薩割並名已勇聞慶
 6 由善積祚將至英賢誕生即 薩割太師令公弟
 7 二子也以命世之才 開基之運 景宗皇帝念是
 8 忠臣之子致于近侍始授保義功臣崇祿大夫檢校
 9 太保行左金吾衛大將軍兼御史大夫上柱國漆水縣
 10 開國子食邑五百戸公盡忠盡節竭力竭身 景宗
 11 皇帝臥朝之日願隨從死 今上皇帝念此忠赤特寵
 12 章臨超授保義奉節功臣羽厥里節度使特進檢
 13 校太尉同政事門下平章事上柱國漆水縣開國
 14 伯食邑七百戸公威極北之壇境押沮捩之失圍聞
 15 見歸降例皆森聳妖訛掃盡蕩滅凶頑路不拾遺
 16 安人得衆天之道滿壽盡者然以統和三年十二月三十
 17 日于羽厥里瘡疾而薨年三十九聖上軫愍即以令歸本
 18 國去統和四年十一月十八日葬于白崖山中之禮也
 19 夫人頻畢令公大女坤儀德備令淑伝芳從夫榮赴任
 20 獨歸苦痛至切覩靈帳前蕭疎冷落血淚交流男和哥
 21 寺奴賽保捏骨里超群書算武射猿猱女喜哥演弥已霸哥
 22 迴稟慈柔芳年黠惠公唐唐相兒狀若神姿何有非常之福而無壽永之貞歟今會葬連崗即局
 23 幽室或慮寒來暑往坐遷年世之期雨灌霜封莫識生平之事謹為銘曰誕生令德威鎮北方輔弼
 24 聖朝出入將相福兮已過禍兮遄逼卜連崗兮安此宅為來世之所識

§ 3 『北大王墓誌』(契丹大字『霞里隱大王墓誌』の蓋の裏に刻されている)

1 乾覆坤載之中孕粹靈者風雲之秀日照月臨之下產賢傑
 2 者川岳之精苟非上應台符下合神契莫得而降哉資以兼之
 3 其惟大王乎王諱万辛於重熙四年封為北大王同政事門下
 4 平章事曾祖諧里夷離董父索胡舍利大王先娶達曷娘子年
 5 十六而夭生一子馬九本王府司徒再娶留女夫人三十八終生

- 6 一子三部奴祗侯又娶得索胡駙馬曩胡公主孫奚王西南面都
- 7 招討大王何你乙林免之小女中哥貞順成風言容作範六年內
- 8 加北大王封為乙林免生四子長曰把八次陳六次胡都乎次散
- 9 八大王入仕年月歷宦官姿並次於契丹字內身從居宦騎不息
- 10 鞍簡策鮮妍重重書內威儀冠裳赫奕世世為本郡王慷慨雄圖
- 11 優遊大國五百年之嘉合時應匡扶四十萬之軍戎咸歸掌握
- 12 西北宿尊之胤山河右地之雄精氣巨鍾惟王所誕莫不粹靈
- 13 孕賢產傑惜哉孝未罄於苗陔志先驚於風樹太山頽爰知朽壤
- 14 梁木壞罔復擎天於重熙十年二月十五日夜疾薨於上京南之
- 15 私地年六十九嗟乎白日西去時非再來委相閣之深嚴入重泉
- 16 之暝昧痛此夜之無曉見終天之不歸嗣子等咸荷 慶靈用昭
- 17 義訓撫柩永訣有識皆悲以其年十月八日葬於舊郡之丁地勒
- 18 銘垂休以示千古銘曰應運生兮符五百 佐兩朝兮昭盛德 養盡
- 19 孝兮侍竭忠 封為王兮郡有北 天罔忱兮氛色凌 命不與兮落
- 20 將星 愁雲布兮徒黯黯 苦霧飛兮自冥冥 朔氣移兮成荒土 白日
- 21 西兮嗟歲苦 惟專次第紀功名 誌向貞珉光萬古

§4 『耶律昌允妻蘭陵郡夫人蕭氏墓誌銘』（契丹大字『故撻不衍觀音太師墓誌』と同墓より出土）

- 1 大橫帳故建雄軍節度使崇祿大夫檢校太師右千牛衛上將軍知涿州
- 2 軍州事耶律昌允妻蘭陵郡夫人蕭氏墓誌銘並序
- 3 夫人姓蕭氏大國舅尚父帳故中書令諱神都穩夫人大橫帳耶律氏曾
- 4 王父母也闡里王長女土呼公主國姓耶律氏三太傅駙馬都尉諱耶屍輦
- 5 王父母也春哥郎君耶律氏屈輦娘子烈考妣也若乃與國結婚之始起
- 6 家為相之來經綸協謀之勤佐佑席寵之貴國史書焉累朝入仕之資重
- 7 世襲爵之慶奇功顯晦之跡宗親中外之倫家牒存焉夫人即春哥郎君
- 8 之長女淑慧無方柔嘉有章鐘越葵之星光郁燕蘭之國香仁慈繼體孝
- 9 敬因心遠驕侈於貴高施寬仁於僕庶故建雄軍節度使檢校太師姓出
- 10 帝系籍通皇闈磊落負天人之才縱橫聳棟榦之具瞻乃英胄允為好逑
- 11 鳴鳳成佔乘龍作儷邇後太師既歲月受代更踐要職夫人累封至蘭陵
- 12 夫人從夫貴也自私室佐餽問衣進與先後起敬婉而德從噫悼孤桐之
- 13 半死誓中柏之靡它克正母儀遂專家事庭闈之訓隸慈誨於義方筐篚
- 14 之儀竭勤誠於薦獻大安七年冬十一月寓居中都清河張公之私第其月
- 15 十二日寢疾而終享年八十有一故孫度賴郎君妻蕭氏楊哥娘子觸地
- 16 哀摧血涕過毀其月十九日啟手足於寓居之宅歸於義州北塔山之陽
- 17 大安八年壬申歲正月壬寅二日乙酉癸時啟先太師之塋合祔焉禮也二
- 18 子長崇祿大夫檢校功部尚書飛騎尉復州團練使諱佶次曰特里德皆
- 19 清言偉度懿行純誠如璋如璋既大成於禮器為梁為棟將肯構於明堂皆先
- 20 夫人而逝王家慶集方並秀於瑤林謝氏痛深遽雙凋於玉樹孫二人長曰度
- 21 賴次曰八十五皆風儀閒雋神用韶朗墳素必讓流略斯愬亦皆先夫人
- 22 終孫女二人長曰闡悖演次曰時始裡並從適嫁曾孫一人小字慶喜幼亡

23 曾孫女三人孟曰烏離演仲曰阿火季曰耶懶並幼夫人處室也事父母
 24 以孝恭兄妹以悌宜家也待夫以敬睦族以和修時祭必服勤而躬饋之
 25 薦福供必潔已而親致之慈童孺格霸貫以焚香禮佛為事以濟僧施貧
 26 為念讀誦經典日不暇給其餘福行具見寺碑故得年甫期順耳日聰明
 27 至於考終正念無倒芸芸物性靜本於歸根冉冉人生徒嗟於閱世嗚呼
 28 哀哉孝孫婦楊哥出以家牒請記沉石比克永世以嗣家聲靈廡含情祠
 29 既存於湘渚神閨遺恨名不泯於平原事不及讓謹為銘曰 銀潢淪精
 30 相門誕生天與淑哲日躋聰明婺徽儲祉降嬪戚裡秀映閨房芳流沼沚
 31 繡題有章粉田易疆賦廣逾儉評尊益光蘭陵上郡嘉號楊兮總以玉笄
 32 友之瑤瑟芝蘭其言金玉其質天行厥愆生六疾兮勿藥有妄宜數攸拘
 33 舟遁宵壑簫笳咽恨列涂芻兮膊布畢陳露晞朝梧袷衣已薤薤唱增口
 34 松扃重閉龜筮葉吉祔泉隧兮戚晨悼兮孫婦哀佳城郁兮不復開魂悠
 35 悠兮夜台隴樹森兮雙表植浩劫春兮無時極名赫赫兮幽石

§ 5 『蕭孝忠墓誌』（契丹大字『フリジ契丹国六部遙里撒里必石烈阿縵太師墓誌』の蓋の裏に刻されている）

- 1 南贍部州大遼國錦州界内胡僧山西廿里之撒里必部
- 2 落奚王府東太師所管刺史位烈虎衙内孫鐵林
- 3 軍廂主男軋寧軍火師靜江軍節度使蕭孝忠
- 4 前嬪先掩泉臺所生一男名鄭哥次妻琴絃倏斷
- 5 所生一男名何乃弟三夫人南大王根分女所生兒女四
- 6 長名冬女次名天王女幼名觀音女一男名藥師奴
- 7 弟四嬪東刺史位女漆水郡夫人並無兒女弟五
- 8 漢兒小娘子蘇哥所生一女名石婆夫人等莫不
- 9 容多艷冶性稟淑賢奈福善之無徵而有斯
- 10 疾縱良醫之不驗今也則亡豈不欲垂後裔慶
- 11 延子孫謀刊錄於貞珉矣
- 12 大安五年歲次己巳十二月一日丁酉朔二十五日辛酉日辛時葬訖

§ 6 『蕭袍魯墓誌銘』（契丹大字『蔑古乃乙辛隱袍里宰相勅葬墓誌』の石に刻されている）

- 1 大遼故北宰相贈潞州節度使同中書門下平章事蕭公墓誌銘
- 2 翰林侍讀學士大中大夫行給事中知制誥充史館修撰伴讀燕國王上輕車都尉太原縣開國侯食邑一千戶
賜紫金魚袋王師儒奉
- 3 勅撰
- 4 恭聞地分五嶽嵩嶽神而申伯生天列三臺中臺坼而張華沒載稽諸史可得而言而況有國宗臣為時元
- 5 老來膺休運坤鄉標叶識之徵去弃餘年乾象動見妖之變考始終之遺迹與今昔以同符者見於故北宰
- 6 相蕭公公姓蕭氏諱袍魯其先蘭陵人也自遙輦建國以還泊 太祖開國而下文武奕代將相盈門
- 7 積善之家慶有餘而弥劭盛德之後世雖百以猶昌輝映策書此不煩紀曾王父諱割輦北宰相金印紫綬
- 8 首居丞相之尊鐵券丹書長守功臣之約王父諱解里含章可貞潛德弗輝烈考諱輿幹仕至遙輦尅雖生
- 9 屈大名而沒膺殊典泥章蜜印頒閔制以自天黃衰玄旒備采章而告第以公之貴特贈同中書門下平章
- 10 事公憑積累之休慶挺岐嶷之殊姿好談王霸之言尤尚政刑之學自比管樂孔明夙負於壯圖有志伊周

11 王儉早懷於奇節 興宗皇帝嘉其遠器真以近班入衛周廬出陪制蹕加之謹密濟以忠勤尋差知
 12 兵帳而能閱興賦之耗登較軍師之衆寡若指諸掌成誦在心重熙中銀夏不恭靈旗指伐白旄黃鉞方親
 13 御於六軍尺籍伍符委分提於七校以公押領殿中司一行兵馬公奮其餘勇務在先登提鼓建旗連控
 14 敵人之銳獻俘授誠常居諸師之先泊王師凱旋祖宮飲至賞功授本府敝史歷左金吾詳穩然策敵制勝
 15 早推李弼之才而御衆牧民復借寇恂之治改授松山州刺史下車布政訟息刑清以能遷歸州觀察使歲
 16 滿遙領靜江軍節度使行駕廉車攬轡有澄清之志坐提將鉞登壇多慷慨之風累遷匡義彰聖開遠臨海
 17 等軍節度使威名治迹所至有稱雖申伯之作翰四方李愬之秉旄六鎮同年而語亦未加焉
 18 國家以殷子古墟鮮卑別部風俗桀驁鎮撫實難式籍沉謀俾遏亂略命公為湯河女直詳穩公綏之以德
 19 董之以威衆畏而懷罔有不率高秩厚禮思報於殊勳隆器大名亟膺於異屋特授太子太傅歲滿召拜北
 20 宰相公繇命世之才逢知己之主咸有一德允釐百工雖謝相當年思為蒼生而起為留侯晚歲願從赤松
 21 之游累抗封章乞還田里敦諭然切陳告彌堅重念乃勞遂違所請不得已復起視事將欲致君堯舜為國
 22 伊周關壽域於人間平泰階於天上大志未就美口俄嬰柱石其衰唐帝憂魏徵之疾梁木斯壞魯人悲孔
 23 父之亡大安五年正月二十三日啟手足於行帳享年七十有二 上聞訃震悼特為輟朝詔贈潞州
 24 節度使同中書門下平章事哈綽賻贈有加常等仍遣東京警巡使司農少卿張可及充勅察使司農少卿
 25 知遼西州軍州事楊恂如充勅葬使襄事所須皆從官給以大安六年三月十九日歸葬於祺州娘子庄從
 26 合耐也夫人耶律氏橫帳故前節度使曷蘆不之女早亡次娶耶律氏北大王帳故靜江軍節度使陳家奴
 27 女以為繼室亦早亡續娶次夫人妹以待巾櫛年未二紀先公而逝公以與次夫人同胞之故命葬於二夫
 28 人之墓側禮也三夫人皆治家有法何速逝於前傷矣哉子二人長曰撻烈北面護衛耿介不群倜儻有立
 29 保家之主其在斯乎次日俞都姑孝謹有稱義方無玷女二人長曰渤魯里適遙輦耶律豬兒次日移信適
 30 北面護衛耶律王七孫五人長曰延部次日和尚次日烏奪刺次日割只哥次日落姑鶯鶯羽儀騏驎步驟
 31 修涂選業未易可量孫女二長曰特里得次日烏者公出累相之門處宗臣之位富而好禮貴不期驕朋友
 32 未聞否臧之言宗親弗見喜愠之色而復尊賢好士矜孤恤貧元善以長人厚德以載物陳蕃忠孝之節造
 33 次不渝吉甫文武之才縱橫自任故得勳流鍾鼎績紀旂常國官長於百寮家世祀於五廟能至於此何其
 34 盛哉特詔醵臣俸述遺懿五月而葬將歸厝於玄扈百世可知宜勒銘於貞礎銘曰
 35 尾星之靈 昂宿之精 粹氣交感 鉅賢間生 有若瑚璉 清廟之器 又如麟鳳 明王之瑞
 36 落落奇節 琅琅俊聲 抱仁處義 履信含貞 出殿巨藩 入為元輔 丹青神化 金玉□度
 37 才兼文武 身繫安危 智謀淵藪 吉凶著龜 爵隆愈恭 寵至益戒 有始有卒 知□□□
 38 昊天不吊 殲我良臣 如可贖兮 人百其身 鬱鬱新阡 蒼蒼宰樹 億萬斯年 蕭公之墓

§7 『蕭興言墓誌』（契丹大字『大中央フリジ契丹國烏隗部曷魯夷離董帳故西北路招討訛都宛太傅妻永寧郡公主位誌銘』と同墓より出土）

- 1 故守太子太保西北路招討使三十萬兵都統軍蕭公墓誌銘
- 2 公諱興言其先蘭陵人也曾祖諱雲實宰相尚書令贈守政事令駙馬都尉始妻以照國公主卒繼之以魏
- 3 國大長公主祖諱烏咽里駙馬大王招討使有二妻賽哥公主鉢國娘子娘子即皇太妃之女也皇考諱
- 4 恭,北宰相兼侍中燕京都統軍自先數世咸建巨功遺風餘烈國史存焉恭之妻別胥孫你大王之
- 5 妹也生三子長曰曷魯將軍季曰薩板將軍公即別胥之中男也清寧間以其性賦雄毅承祖
- 6 之廕寘于宿直禁衛之列次授官使時年二十七因迪烈子叛上以公世鎮西北隅特簡授遙郡
- 7 節度使口用討伐公既承命止率人騎五十入其境會彼首領說而質其子由是不破一甲而和
- 8 焉復還所虜人物是歲從貢今匪闕供兼給役使十一道上重其口轉加金吾衛上將軍改
- 9 詳穩司為統軍司復授三十萬兵都統軍詔制闔外專以生殺後又以萌骨子不剋公乃九征

10 而五帥其師矛鉞所指罔不畏從或犯他守則公亦越境而制之矣是故四懷款附之誠一無犬吠之
 11 警者皆公之力焉以此又加龍虎衛上將軍招討使守太子太保兼賜勳力功臣疆場內外聆其
 12 威名嚮其風聲雖孩提無識尚猶屏氣跼脊莫敢呱呱而啼焉況渠魁大慙其可犯乎公之
 13 為人英烈人也善太上遁甲六鏡三略精通戎律博究天文勇而有謀智而不法克必在和威
 14 以濟愛用兵如破竹去口若摧山氣干青雲精貫白日苟解紛排難匡國致君則難死而不懼焉至有
 15 逆天時乖地利折箸焚龜反負為勝呂尚父之駕又何遠哉允所謂四方一奇千古一絕國家之楨幹社
 16 稷之碩臣者焉嗚呼祥麟瑞鳳兆于一時豈久住於世而已哉果于大安三年六月十九日疾而薨春秋五十
 17 有六三室一女無子一姪室之大者曰永寧郡主即三韓大王韓國妃之女也好佛書尚儒素善詩什和而無妬賢
 18 淑聰敏卓越當時次曰董家夫人亦善文學博史記小曰媿夫人以其沖口但紀其號女曰為女娘子適橫帳于
 19 越大王弟涅魯姑林牙臘夫人男詳穩撻不也哩妻未娶而卒公病遺旨乞骸同葬後郡主以書告其舅姑許置
 20 墓右姪資底石為公養子威武頗冠年十七從公出征料敵之下外以矢擊公未克視資底石乃以身遮
 21 之孝聞于上遂授左承制公所保惜與嫡無異噫公之無子何也蓋仙芝匪種靈椿寡根故天不與嗣而續焉
 22 悲夫煙霄路遠魂夢難尋妻氏郡主夫人等自塞下輦其屍之西樓潢水北三十里嵩山之陽有巨崗
 23 名之曰盤龍崗率工開發為之塋壘卜於十月二十二庚子日敬安置之乃命天水趙臨誌其事臨不敢以文翳
 24 實會其家錄書之琬琰庸示將來因為銘曰 蘭陵元帥 果毅雄強 鎮彼西土 壯我北方
 25 戎律宏贍 天文聿彰 和眾以德 禦侮以剛 共公去久 柱摧而殃 身沒名在 死而不亡
 26 葬之何處 嵩山之陽 確乎不拔 盤龍巨崗 大安三年十月 日鄉貢進士趙臨撰匠人張繼正雋

§8 『耶律習涅墓誌』(契丹大字『大中央契丹國惕隱司仲父房習涅副使墓誌』の石に刻されている)

1 故興復軍節度副使墓誌銘並序
 2 維天慶三年冬十一月公春秋五十有一遭疾卒於公署諱習涅
 3 小字把八即大橫帳乙信直魯姑郎君之子也大國舅鄭九郎君
 4 長女乃合得夫人即公之母也于越王兵馬大元帥諱習寧小字
 5 盧不姑即公之六代祖也樞密使西平王諱奧聒只小字賢聖即
 6 公之高祖也節度使諱應恩小字觀音即公之曾祖也太尉諱直
 7 魯衰小字解里即公之祖也兄關離刺小字不迭里見任雲內
 8 州節度使弟王家奴郎君季弟習尼里郎君俱不仕干濟家事接
 9 待賓客侃侃如也先公三二年相繼而歿故妹把兒娘子適大國
 10 舅韓家奴太保次妹年歲好娘子適大國舅拽刺將軍故妻捺割
 11 大國舅乍里太師女也次妻大國舅阿思不里太師女也男正臣
 12 蒲蘇幹然始弱齡亦有遠業公自大安間從仕歷左祇候郎君越
 13 在宿衛忠敬克篤勛力彌盛
 14 上乃詔同知歸化州軍州事其所摘伏自有嘉績次授興復軍節
 15 度副使視人如傷平獄貴怨士民畏愛稱為良吏焉翊贊兩朝始
 16 終一節年才知命不幸而殞天之報施糾墨何知即為天慶四年
 17 三月二十五日葬於嘉鹿山先塋之側與妻捺割合祔焉禮也噫
 18 人之有生靡不有死身歿譽彰前賢所躋序以表德銘以述美辭
 19 曰天開貴胄 始祖稱王 枝派而下 西平繼昌 展矣曾祖 遭時
 20 鳳翔 或掌樞要 謀謨廟堂 或鎮兵衛 讐服四方 尹帷顯考 高尚其
 21 志 草芴權豪 錙銖名利 歐鳥可狎 物我齊致 篤生厥公 惟道是崇

- 22 生民之傑 丈夫之雄 歷仕兩朝 毅然立功 內備宿衛 孜孜效忠
 23 外宰兩郡 匪遑廼躬 未及下車 已聞政隆 折獄聽訟 兩辭必通 除
 24 奸剪暴 一時肅雍 如何斯人 而遭其凶 天實厭德 不幸而終 悲纏
 25 五內 痛深九宗 靈車需啟路 白驥嘶風 行雲聚散 歸鳥西東 百世之
 26 後 壟草猷豐

注

- 1) 現代満洲語の三つの方言についての詳細は、拙著『満洲語語音研究』（京都・玄文社、1994年）を見よ。
- 2) 金光平先生の生涯についての詳細は、拙著『最後の公爵 愛新覚羅恒煦—激動の中国百年を生きる—』（吉本道雅訳、朝日新聞社、1996年）を見よ。
- 3) 契丹大字『痕得隱太傅墓誌』（遼穆宗應曆十年 960）は2007年に出土した。墓誌の解説と考証としては、(1)愛新覚羅 2008：「歐思涅烈家族與東丹国世選制」、文科省科研費基盤研究・平成 19 年度研究成果報告書。『愛新覚羅烏拉熙春女真・契丹学研究』（松香堂、2009 年）所収。(2)愛新覚羅 2009：「契丹大字『痕得隱太傅墓誌』漢文『上国都監墓誌』合考」、『東亜文史論叢』2009-1。(3)愛新覚羅 2010：「中央民族大学古文字陳列館所蔵時代最早の契丹大字『痕得隱太傅墓誌』」、『首都博物館叢刊』24。(4)愛新覚羅・吉本 2011：『韓半島から眺めた契丹・女真』、京都大学学術出版会、2011 年。(5)愛新覚羅 2013：『契丹大字墓誌全釈』がある。
- 4) 契丹大字『大金国先父郎君墓誌銘』（金世宗大定十六年 1176）の拓本は1950年代に発見した。墓誌の解説と考証としては、(1)愛新覚羅 2005：『契丹大字研究』東亜歴史文化研究会、2005 年。(2)愛新覚羅 2011：『契丹語諸形態の研究』、文科省科研費基盤研究・平成 22 年度研究成果報告書。(3)愛新覚羅 2013：『契丹大字墓誌全釈』がある。
- 5) 契丹小字『烏隗烏古里部宸安軍節度使兀古隣太師墓誌銘』（遼興宗重熙二十年 1051）は2011年に出土した。墓誌の解説と考証としては、(1)「契丹小字『烏隗烏古里部宸安軍節度使兀古隣太師墓誌銘』」、『契丹言語文化研究センター紀要』2012-2、(2)愛新覚羅・吉本 2012：『新出契丹史料の研究』、松香堂、2012 年。(3)愛新覚羅 2013：『契丹小字墓誌全釈』がある。
- 6) 契丹小字『大金故頭武將軍上師居士蘭陵県開国男騎都尉食邑三百拔里公墓誌』（金世宗大定十五年 1175）は2004年に出土した。墓誌の解説と考証としては、(1)愛新覚羅 2009：「契丹文『惕隱司孟父房白隱太傅位誌碑銘』『大金故頭武將軍上師居士拔里公墓誌』合考」、『立命館文学』614。(2)愛新覚羅・吉本 2011：『韓半島から眺めた契丹・女真』、京都大学学術出版会、2011 年。(3)愛新覚羅 2013：『契丹小字墓誌全釈』がある。
- 7) 契丹語では、「契丹大字」を *mo dor-n usəg*（大・印の・字）といったが、「印」を示す *dor* は同音の「礼」を表示する可能性も有する。同様に、「契丹小字」を *daud dor-n usəg*（仲・印の・字）といったことにも看取しうる。
- 8) 拙作「契丹蒙古札記」、『立命館文学』584号、2004年。
- 9) 契丹小字 ᠠᠷ *ar* の音価を正確に推定した上で、契丹語人名 ᠮᠤᠴᠤᠷ *puswər* を正確に「蒲速里」と音訳した嚙矢というべき成果は、拙作「永清郡主与太山將軍世系考」（『東亜文史論叢』2004-1）にほかならない。
- 10) 拙著『契丹文墓誌より見た遼史』（松香堂、2006年）第五章「契丹の自称及び漢人に対する呼称」を見よ。
- 11) 男性形は *djiaugur*。拙著『契丹語諸形態の研究』（東亜歴史文化研究会、2011:45-47）。
- 12) 契丹人には、男子に限って、「名」（「小名」または「小字」とも称する呼び名）の他にさらに「字」をもつ慣習がある。この「字」の語幹に接尾されるのは、形動詞語尾または出実形容詞語尾の女性形 *-n* であり、この語幹＋女性語尾 *-n* は同時に契丹女子の「名」にも用いられる。それに対して、契丹男子の「名」の語幹に接尾されるのは形動詞語尾または出実形容詞語尾の男性形 *-r* である。詳細は <http://www.apu.ac.jp/~yoshim/B1.pdf> を見よ。
- 13) 耶律谷欲、字休堅、六院部人。父阿古只、官至節度使。谷欲沖澹有禮法、工文章。統和中、為本部太保。開泰

中、稍遷場母城節度使。鞫霸州疑獄、稱旨、授啟聖軍節度使。太平中、復為本部太保。謝病歸、俄擢南院大王。歎風俗日頹、請老、不許。興宗命為詩友、數問治要、多所匡建。奉詔與林牙耶律庶成·蕭韓家奴編遼國上世事跡及諸帝實錄、未成而卒、年九十。

14) 耶律特麼、季父房之後。重熙間、為北剋、累遷六部禿里太尉。大安四年、為倒塌嶺節度使。頃之、為禁軍都監。是冬、討磨古斯、斬首二千餘級。十年、復討之。既捷、授南院宣徽使。壽隆元年、為北院大王。四年、知黃龍府事、薨。

15) 耶律阿思、字撒班。清寧初、補祗候郎君。以善射、掌獵事、進渤海近侍詳穩。重元之亂、與護衛蘇射殺涅魯古、賜號靖亂功臣、徙契丹行宮都部署。大安初、為北院大王、封漆水郡王。壽隆元年、為北院樞密使、監修國史。道宗崩、受顧命、加于越。錄乙辛黨人、罪重者當籍其家、阿思受賂、多所寬貸。蕭合魯嘗言當修邊備、阿思力沮其事、或譏其以金賣國。後以風疾失音、致仕、加尚父、封趙王。薨、年八十、追封齊國王。

16) 耶律玦、字吾展、遙鮮質可汗之後。重熙初、召修國史、補符寶郎、累遷知北院副部署事。入見太后、后顧左右曰：「先皇謂玦必為偉人、果然。」除樞密副使、出為西南面招討都監、歷同簽南京留守事·南面林牙。皇弟秦國王為遼興軍節度使、以玦同知使事、多所匡正。十年、復為樞密副使。咸雍初、兼北院副部署。及秦國王為西京留守、請玦為佐、從之。歲中獄空者三、召為孟父房啟穩。玦不喜貨殖、帝知其貧、賜宮戶十。嘗謂宰相曰：「契丹忠正無如玦者、漢人則劉仲而已。然熟察之、玦優於仲。」先是、西北諸部久不能平、上遣玦問狀、執弛慢者痛繩之。以酒疾卒。

17) 耶律仁先、字紕鄰、小字查刺、孟父房之後。父瑰引、南府宰相、封燕王。仁先魁偉爽秀、有智略。重熙三年、補護衛。帝與論政、才之。仁先以不世遇、言無所隱。授宿直將軍、累遷殿前副點檢、改鶴刺唐古部節度使、俄召為北面林牙。十一年、陞北院樞密副使。時宋請增歲幣銀絹以償十縣地產、仁先與劉六符使宋、仍議書「貢」。宋難之。仁先曰：「曩者石晉報德本朝、割地以獻、周人攘而取之、是非利害、灼然可見。」宋無辭以對。乃定議增銀、絹十萬兩、匹、仍稱「貢」。既還、同知南京留守事。十三年、伐夏、留仁先鎮邊。未幾、召為契丹行宮都部署、奏復王子班郎君及諸宮雜役。十六年、遷北院大王、奏今兩院戶口殷庶、乞免他部助役、從之。十八年、再舉伐夏、仁先與皇太弟重元為前鋒。蕭惠失利于河南、帝猶欲進兵、仁先力諫、乃止。後知北院樞密使、遷東京留守。女直恃險、侵掠不止、仁先乞開山通道以控制之、邊民安業。封吳王。清寧初、為南院樞密使。以耶律化哥譖、出為南京兵馬副元帥、守太尉、更王隋。六年、復為北院大王、民歡迎數百里、如見父兄。時北、南院樞密官涅魯古、蕭胡睹等忌之、請以仁先為西北路招討使。耶律乙辛奏曰：「仁先舊臣、德冠一時、不宜補外。」復拜南院樞密使、更王許。九年七月、上獵太子山、耶律良奏重元謀逆、帝召仁先語之。仁先曰：「此曹兇狠、臣固疑之久矣。」帝趣仁先捕之。仁先出、且曰：「陛下宜謹為之備！」未及介馬、重元犯帷宮。帝欲幸北、南院、仁先曰：「陛下若舍屣從而行、賊必躡其後；且南、北大王心未可知。」仁先子撻不也曰：「聖意豈可違乎？」仁先怒、擊其首。帝悟、悉委仁先以討賊事。乃環車為營、拆行馬、作兵仗、率官屬近侍三十餘騎陣柵外。及交戰、賊眾多降。涅魯古中矢墮馬、擒之、重元被傷而退。仁先以五院部蕭塔刺所居最近、亟召之、分遣人集諸軍。黎明、重元率奚人二千犯行宮、蕭塔刺兵適至。仁先料賊勢不能久、俟其氣沮攻之。乃背營而陣、乘便奮擊、賊眾奔潰、追殺二十餘里、重元與數騎遁去。帝執仁先手曰：「平亂皆卿之功也。」加尚父、進封宋王、為北院樞密使、親製文以褒之、詔畫灤河戰圖以旌其功。咸雍元年、加于越、改封遼王、與耶律乙辛共知北院樞密事。乙辛恃寵不法、仁先抑之、由是見忌、出為南京留守、改王晉。恤孤惻、禁姦慝、宋聞風震服。議者以為自于越休哥之後、惟仁先一人而已。阻卜塔里干叛命、仁先為西北路招討使、賜鷹紐印及劍。上諭曰：「卿去朝廷遠、每俟奏行、恐失機會、可便宜從事。」仁先嚴斥候、扼敵衝、懷柔服從、庶事整飭。塔里干復來寇、仁先逆擊、追殺八十餘里。大軍繼至、又敗之。別部把里斯、禿沒等來救、見其屢挫、不敢戰而降。北邊遂安。八年卒、年六十、遺命家人薄葬。弟義先、信先、俱有傳。子撻不也。

18) 耶律敵烈、字撒懶、採訪使吼五世孫。寬厚、好學、工文詞。重熙末、補牌印郎君、兼知起居注。清寧元年、稍遷同知永州事、禁盜有功、改北面林牙承旨。九年、重元作亂。敵烈赴援、力戰平之、遙授臨海軍節度使。十年、徙武安州觀察使。咸雍五年、累遷長寧宮使。檢括戶部司乾州錢帛逋負、立出納經畫法、公私便之。大康四年、為南院

大王。秩滿、部民請留、同知南京留守事。有疾、上命乘傳赴闕、遣太醫視之。遷上京留守。大安中、改塌母城節度使。以疾致仕、加兼侍中、賜一品俸。八年卒。

19) 耶律奴妻蕭氏、小字意辛、國舅駙馬都尉陶蘇幹之女。母胡獨公主。意辛美姿容、年二十、始適奴。事親睦族、以孝謹聞。嘗與娣姁會、爭言厭魅以取夫寵。意辛曰：「厭魅不若禮法。」眾問其故、意辛曰：「修己以潔、奉長以敬、事夫以柔、撫下以寬、毋使君子見其輕易、此之為禮法、自然取重於夫。以厭魅獲寵、獨不愧於心乎。」聞者大慚。初、奴與樞密使乙辛有隙。及皇太子廢、被誣奪爵、沒入興聖宮、流烏古部。上以意辛公主之女、欲使絕婚。意辛辭曰：「陛下以妾葭莩之親、使免流竄、實天地之恩。然夫婦之義、生死以之。妾自笄年從奴、一旦臨難、頓爾乖離、背綱常之道、於禽獸何異？幸陛下哀憐、與奴俱行、妾即死無恨。」帝感其言、從之。意辛久在貶所、親執役事、雖勞無難色。事夫禮敬、有加于舊。壽隆中、上書乞子孫為著帳郎君。帝嘉其節、召舉家還。子國隱、乾統間始仕。保大中、意辛在臨潢、謂諸子曰：「吾度盧彥倫必叛、汝輩速避、我當死之。」賊至、遇害。

20) 兀沒、大康三年為漢人行宮副部署。乙辛誣害太子、詞連兀沒、帝釋之。是秋、乙辛復奏與蕭楊九私議宮壺事、被害。乾統間、贈同中書門下平章事。

21) 耶律幹特刺、字乙辛隱、許國王寅底石六世孫。少不喜官祿、年四十一、始補本班郎君。時樞密使耶律乙辛擅權、讒害忠良、幹特刺恐禍及、深自抑畏。大康中、為宿直官、歷左、右護衛太保。大安元年、升燕王傅、徙左夷離畢。四年、改北院樞密副使。帝賜詩褒之、遷知北院樞密使事、賜翼聖佐義功臣。北阻卜酋長磨古斯叛、幹特刺率兵進討。會天大雪、敗磨古斯四別部、斬首千餘級、拜西北路招討使、封漆水郡王、加賜宣力守正功臣。尋拜南府宰相。復討開古胡里扒部、破之、召為契丹行宮都部署。先是、北、南府有訟、各州府得就按之；比歲、非奉樞密檄、不得鞠問、以故訟者稽留。幹特刺奏請如舊、從之。壽隆五年、復為西北路招討使、討耶睹刮部、俘斬甚眾、獲馬、駝、牛、羊各數萬。明年、擒磨古斯、加守太保、賜奉國匡化功臣。乾統初、乞致仕、不許、止罷招討。復兼南院樞密使、封混同郡王。遷北院樞密使、加守太師、賜推誠贊治功臣。致仕、薨、諡曰敬肅。

22) 蕭朮哲、字石魯隱、孝穆弟高九之子。以戚屬加監門衛上將軍。重熙十三年、將衛兵討李元昊有功、遷興聖宮使。蒲奴里部長陶得里叛、朮哲為統軍都監、從都統耶律義先擊之、擒陶得里。朮哲與義先不協、誣義先罪、免官。稍遷西南面招討都監、坐事下獄、以太后言、杖而釋之。清寧初、為國舅詳穩、西北路招討使、私取官粟三百斛、及代、留畜產、令主者鬻之以償。後族弟胡睹到部發其事、帝怒、決以大杖、免官。尋起為昭德軍節度使、徵為北院宣徽使。九年、上以朮哲先為招討、威行諸部、復為西北路招討使。訓士卒、增器械、省追呼、嚴號令。人不敢犯、邊境晏然。十年、入朝、封柳城郡王。咸雍二年、拜北府宰相、為北院樞密使耶律乙辛所忌、誣朮哲與護衛蕭忽古等謀害乙辛。詔獄無狀、罷相、出鎮順義軍。卒、追王晉、宋、梁三國。姪藥師奴。

23) 朮本名撒离喝、安帝六代孫・泰州婆盧火之族・胡魯補山之子。雄偉有才略、太祖愛之、常在軍中。及婆盧火為泰州都統、宗族皆隨遷泰州。撒离喝嘗為世祖養子、獨得不遷、仍居安出虎水。宗翰・宗望已再克汴、執宋二主北還。宗望分遣諸將定河北。左都監闍母攻下河間。雄州李成棄城走、撒离喝邀擊、大破之、雄州遂降。睿宗經略山東、留撒离喝于河上、而真定境內有賊眾、自稱元帥秦王。撒离喝擊破其眾、執而戮之。從平陝西、撒离喝徇地自渭以西、降德順軍、又降涇原路鎮戎軍、進平熙河、降甘泉等三堡、遂取保川城。明年、同奔睹討平河外、降寧洮、安隴二寨、并降下河及樂州。至西寧、盡降其都護官屬、於是木波族長等皆迎降。攻慶陽、敗其拒者、遂降其城。慕洧以環州來降、得城寨十三、步騎一萬。於是、宗弼軍敗于和尚原、上褒美撒离喝而戒勵宗弼。睿宗已定陝西、留兵屯衝要、使撒离喝總之。居無何、請收劍外十三州。與宋王彥之軍七千人遇于沙會濬、敗之、遂克金州。連破吳玠諸軍于饒峰關、遂取真符縣、取洋州入興元府。敗吳玠兵于固鎮、擒其兩將。撒葛祝等破宋兵、盡下諸砦及仙人關。天會十四年、為元帥右監軍。天眷三年、宗弼復取河南。撒离喝自河中出陝西。既至鳳翔、擊走宋軍。是時、宋軍在京兆西者甚眾。諸將以暑雨、欲駐軍。且聞宋兵九萬會于涇州、都元帥遣河南步卒來會軍。撒离喝留諸將屯環慶、獨以輕騎取涇州。六月、敗宋兵于涇州。宋兵走渭州、拔离速追擊、大敗之。未幾、為右副元帥。皇統三年、封應國公、錫賞甚厚。熙宗出獵、賜具裝馬二、命射于園中。加開府儀同三司。將還軍、命宰臣餞之。海陵升蒲州為河中府、撒离喝為河中尹、

左副元帥如故。自陝西入朝、因從容言曰：「唐建成不道、太宗以義除之、即位之後、力行善政、後世稱賢。陛下以前主失德、大義廢絕、力行善政、則如唐太宗矣。」海陵聞其言、色變、撒離喝亦悔其言。既而進封國王、從行官吏皆官賞之。海陵念撒離喝久握兵在外、頗得士心、忌之、以為行臺左丞相兼左副元帥。又恐不奉命、陽尊以殊禮、使係屬籍、以玉帶璽書賜之。撒離喝至汴、詔諭行臺右丞相、右副元帥撻不野無使撒離喝預軍事。撒離喝不知、每事輒爭之。撻不野詭曰：「太師梁王以陝西事屬公、以河南事屬撻不野、今未嘗別奉詔命。陝西之事、撻不野固不敢干涉。」撻不野久在河南、將帥畏而附之。撒離喝始至勢孤、爭之不得、白於朝。大臣知上旨、報曰：「如梁王教。」及詔使至汴、諭旨於撻不野。使還、撻不野獨有附奏、撒離喝不得與聞、人皆知海陵使撻不野圖之矣。會海陵欲除遼王斜也子孫及平章政事宗義等、元帥府令史遙設希海陵旨、誣撒離喝父子謀反、并平章宗義、尚書謀里野等。遙設學撒離喝手署及印文、詐為契丹小字家書與其子宗安、從左都監奔睹上變。封題作已經開拆者、書紙隱約有白字、作曾經水浸、致字畫分明者、稱御史大夫宗安於宮門外遺下此書、遙設拾得之。其書略曰：「撻不野自來於我不好、凡事常有隄防、應是知得上意。移刺補丞相於我不好、若遲緩分毫、猜疑必落他手也。」又曰：「阿渾每見此書、約定月日、教掃胡令史卻寫白字書來。」有司鞫問、宗安不服曰：「使真有此書、我剖肌肉藏之、猶恐漏泄、安得於朝門下遺之？」有司掠答楚毒、宗安神色不變。乃置掃胡爐炭上、掃胡不能堪、自誣服。宗安謂掃胡曰：「爾苦矣。」宗義被掠答、不能當、亦自誣服、曰「我輩知不免矣、不早決、徒自苦。」宗安曰：「今雖無以自明、九泉之下當有冤對、吾終不能屈。」竟不服而死。使冢魯渾殺撒離喝于汴、族其家、而無寫書及傳書者主名。有折哥者、能契丹小字、嘗嘗從撒離喝。特末者、陝西舊將、嘗以左副元帥事馳驛赴闕。兩人者皆族誅。撒離喝親屬坐是死者二十餘人。魯王幹者孫耶魯侯使撒離喝于汴、冢魯渾執之、耶魯曰：「願付有司、若法當同坐、雖死不恨。」冢魯渾亦殺之。其家訟于朝、海陵不問、但賜錢二百萬。奔睹遷元帥左監軍、加開府儀同三司。遙設為同知博州事、賜錢三百萬、謂之曰：「爾無自比老人。老人親告朕、爾以告有司、設有撒離喝黨人在其間、敗吾事矣。」老人指蕭玉也。蕭玉名老人、故云然。遙設在博州數歲、後與蕭裕謀反、伏誅。大定初、詔復撒離喝官爵。三年、追封金源郡王、諡莊襄、以郡王品秩官為營葬。十七年、配享太宗廟廷。

24) 蕭仲恭本名朮里者。祖撻不也、仕遼為樞密使、守司徒、封蘭陵郡王。父特末、為中書令·守司空、尚主。仲恭性恭謹、動有禮節、能被甲超橐駝。遼故事、宗戚子弟別為一班、號「孩兒班」、仲恭嘗為班使、歷宮使·本班詳穩。遼帝西奔天德、仲恭為護衛太保、兼領軍事。至霍里底泊、大軍奄至、倉卒走。仲恭母馬乏、不能進、謂仲恭兄弟曰：「汝等盡節國家、無以我為也。」仲恭母、遼道宗季女也。遼主傷之、命弟仲宣留侍其母。仲恭從而西。時大雪、寒甚、遼主乏食、仲恭進衣并進乾糲。遼主困、仲恭伏冰雪中、遼主藉之以憩。凡六日、乃至天德、始得食。後與遼主俱獲、太宗以仲恭忠於其主、特加禮待。天會四年、仲恭使宋。且還、宋人意仲恭·耶律余睹皆有亡國之感、而余睹為監軍、有兵權、可誘而用之、乃以蠟丸書令仲恭致之余睹、使為內應。仲恭素忠信、無反覆志、但恐宋人留不遣、遂陽許。還見宗望、即以蠟丸書獻之。宗望察仲恭無他、薄罰之。於是再舉伐宋、執二帝以歸。累遷右宣徽使、改都點檢。宗磐與宗幹爭辯於熙宗前、宗磐拔刀向宗幹、仲恭呵之乃止。既而宗磐以反罪誅、仲恭衛禁有備、以功加銀青光祿大夫、遷尚書右丞。皇統初、封蘭陵郡王、授世襲猛安、進拜平章政事、同監修國史、封濟王。詔葬遼豫王於廣寧、仲恭請往會葬、熙宗義而許之。改行臺左丞相。居無何、入為尚書右丞相、拜太傅、領三省事、封曹王。天德二年、封越國王、除燕京留守。海陵親為書、以玉山子賜之。是歲、薨、年六十一。諡貞簡。正隆例降王爵、改儀同三司·鄭國公。子拱。

拱本名迪鞏阿不、初為蘭子山猛安。海陵為宰相、徵取人譽、薦大臣子以為達官、遂以拱為禮部侍郎。耶律彌勒、拱妻女弟也、海陵將納為妃、使拱自汴取之。還過燕、是時仲恭為燕京留守、見彌勒身形不類處子、竊憂之、曰：「上多猜嫌、拱其及禍矣。」拱去不數日、仲恭卒。拱至上京、聞訃、以本官起復、佩信牌、往燕京治葬事。未行、彌勒入宮、果如仲恭所相度、即遣出宮。夜半召拱至禁中、詰問無狀。海陵終疑之、乃罷拱禮部侍郎、奪其信牌。拱待命、踰年不報、歸蘭子山治猛安事。是時、蕭恭·張九坐語禁中事得罪、拱至蘭子山、與客會語及之。有阿納與拱有隙、乃誣拱言張九無罪被誅、語涉怨謗。海陵遣使鞫之、戒使者曰：「此子狂妄、宜有此語、不然彼中安得知此事。」使者不復問拱、但榜掠其左驗、使如告語證之、拱遂見殺。

仲宣本名野里補、仲恭母弟。聰敏好學、沉厚少言。五歲、遙授郡刺史、累加太子少師、為本班詳穩。從天祚西、為護衛太保左右班詳穩。至石鞏、遼主留仲宣侍母、遂與其母皆見獲。太宗嘉之、且謂仲宣能知遼國故事、命權宣徽使、從睿宗伐康王。師還、家居者久之。皇統二年、特授鎮國上將軍、歷順義・永定・昭義・武寧四鎮節度使。為政平易、小吏不敢為姦。賄賂禁絕、奴婢入郡人莫識其面。朔・潞百姓皆為立祠刻石頌之。正隆二年卒、年六十四。

25) 石抹卞本名阿魯古列。五代祖王五、遼駙馬都尉。父五斤為群牧使、從睿宗秋山、卞年十三、已能射、連獲二鹿、睿宗奇之、賜以良馬及金吐鶻。天會末、宗弼為右監軍、召卞隸帳下。丁父憂、是時宗磐為太師、撻懶為左副元帥、人爭附之、使人召卞、卞不往。宗磐・撻懶皆以罪誅、人多其有識。宗弼復取河南、與宋人戰於潁州、漢軍少卻、卞身被七創、率勇士十餘騎奮擊、敗之。及宋稱臣、宗弼選嘗有勞者與俱入朝、授卞忠勇校尉。遷宣武將軍、除河間少尹。察廉、升遂州刺史、改壽州、再改唐州。丁母憂去官、起復唐州刺史。海陵伐宋、卞為武毅軍都總管、由別道進兵。遇宋伏兵數百人、以三十騎擊敗之、遂下信陽軍及羅山縣。至蔣州、宋守將棄城遁、因取其城。頃之、軍士皆欲逃歸、關子山猛安結漢軍三猛安謀克劫卞還、舍於漿水之曲。卞乃陰約漢軍將吏乘夜掩殺關子山猛安、復將其軍。大定二年、除鄭州防禦使、以本官領行軍萬戶伐宋。遷武勝軍節度使。宋人請和、明年、有水牛數百頭自淮南走入州境、僚佐欲收之充官用、卞不聽、復驅過淮還之。遷河南尹、轉西南路招討使、改大名尹。大名多盜而城郭不完、卞請修大名城。奏可。城完葺、盜賊不得發。徙臨洮尹、卒官、年六十三。

(立命館アジア太平洋大学教授)